

平成26年度 産業経済研究委託事業

**営業秘密保護制度に関する調査研究報告書(別冊)**  
**「営業秘密管理に関するアンケート」調査結果**

平成27年3月

**株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所**

# 目次

<b>1. 調査概要</b>	3
「営業秘密保護のあり方に関するアンケート」調査概要	4
<b>2. 回答者の分布等</b>	5
(1) 回答企業の主要業種	6
(2) 製造業における主要業種	7
(3) 回答した製造業の主力製品について	8
(4) 回答企業の従業員数について	9
(5) 回答企業の資本金について	10
(6) 回答企業が営業秘密を保有する割合について	11
(7) 回答者の営業秘密取扱いの状況について	12
<b>3. 単純集計</b>	13
(1) 不正競争防止法や営業秘密の3要件の浸透状況について	14
(2) 営業秘密管理にあたり参考している情報について	15
(3) 営業秘密として管理している情報の実態について	16
(4) 企業のオープン・クローズ戦略の実態について	17
(5) 研究開発等の投下費用の増加について	18
(6) 特許要件を満たす発明の秘匿化動向について	19
(7) 最も重要な技術情報が漏えいした場合の損害について	20
(8) 営業秘密を他社と共有する機会について	21
(9) 営業秘密管理を検討する際の課題について	22
(10) 営業秘密管理に要する人員・時間・費用について	23
(11) 暗黙知の文書化・可視化について	24
(12) 営業秘密管理に係る相談窓口への期待について	25
(13) 新興国等への技術・ノウハウの漏えいリスクの高まりについて	26
(14) 情報漏えい(またはその危険性増加)の実態について	27
(15) 非親告罪化について	28
(16) 営業秘密を悪用して生産された物品の流通と規制について	29
(17) 推定規定の導入について	30
(18) 営業秘密の海外サーバーへの保管について	31
(19) 営業秘密の窃取またはその疑い事例について	32
<b>4. クロス集計</b>	33
4-1 営業秘密侵害への対抗策や営業秘密3要件の浸透状況	
(1) 業種による違い	34
(2) 製造業内の業種による違い	35
(3) 製造業内の主力製品による違い	36
4-2 管理している営業秘密の違い	
(1) 業種による違い	37
(2) 製造業内の業種による違い	38
(3) 製造業内の主力製品による違い	39
4-2 管理している営業秘密の違い	
(4) 管理している営業秘密別の他社との共有状況等の違い	40
(5) 管理している営業秘密別の海外サーバーでの保管状況の違い	41
4-3 特許要件を満たす発明の秘匿化選択の違い	
(1) 製造業内の業種による違い	42
(2) 製造業内の主力製品による違い	43
4-4 最も重要な技術漏洩による損害の違い	
(1) 製造業内の業種による違い	44
(2) 製造業内の主力製品による違い	45
4-5 営業秘密の他社との共有等の違い	
(1) 業種による違い	46
(2) 製造業内の業種による違い	47
(3) 製造業内の主力製品による違い	48
4-6 技術・ノウハウの漏えいリスクの高まり意識の違い	
(1) 業種による違い	49
(2) 製造業内の業種による違い	50
(3) 製造業内の主力製品による違い	51
4-7 営業秘密の海外サーバーへの保管の違い	
(1) 業種による違い	52
(2) 製造業内の業種による違い	53
4-8 営業秘密窃取(疑い含む)被害の違い	
(1) 業種による違い	54
(2) 営業秘密を他社と共有していることによる違い	55
(3) 営業秘密を海外サーバーに保管していることによる違い	56
4-9 非親告罪化の要望の強さ	
(1) どのような営業秘密種別に対し非親告罪化の要望が強いのか	57
(2) 営業秘密の他社との共有等と非親告罪化の要望の強さの関係	58
4-10 流通を規制する措置への要望の強さ	
(1) 製造業内の業種別の違い	59
(2) 主力商品別の違い	60
4-11 推定規定への要望の強さ	
(1) 製造業内の業種別の違い	61
(2) 主力商品別の違い	62
(3) クローズ戦略との関係	63
(4) 損害の大きさとの関係	64
(5) 他社と営業秘密を共有等していることとの関係	65
4-12 技術の文書化・可視化の程度	
(1) 業種による違い	66
(2) 製造業内の業種による違い	67
(3) 製造業内の主力製品による違い	68
4-13 営業秘密管理のコスト	
(1) 業種による違い	69
(2) 製造業内の業種による違い	70
(3) 製造業内の主力製品による違い	71

## 1. 調査概要

## 「営業秘密保護のあり方に関するアンケート」 調査概要

営業秘密を保有する大企業（製造業7割、非製造業3割）に所属し、自らが営業秘密に関わっている人（各社1名）を調査対象として、2014年10月15日～10月23日の間、Webアンケート調査を実施した。

### 基本事項：

調査概要	営業秘密保護のあり方に関するアンケート
調査実施期間	2014/10/15～2014/10/23

### 調査対象条件（大企業を選択）：

グループ	条件
製造業（7割）	従業員300人以上または資本金3億円以上
	会社として営業秘密を保有している
その他（3割）	従業員300人以上または資本金3億円以上
	会社として営業秘密を保有している

### 調査対象条件（回答者個人）：

所属	上記条件に合致する、営業秘密を保有している大企業に所属すること
条件	回答者本人が営業秘密に関わっていること
その他	回答者は各社1名に限定

### 回答者実績：

#### <スクリーニング調査>

配信数	52,850名
回収数	15,136名
有効回答数	15,097名
本調査対象数	1,616名

#### <本調査>

本調査対象数		1,616名
回答者数 （総計540名）	製造業	372名（68.9%）
	非製造業	168名（31.1%）
回答率		33.4%

## 2. 回答者の分布等

凡例：  
SA  
MA

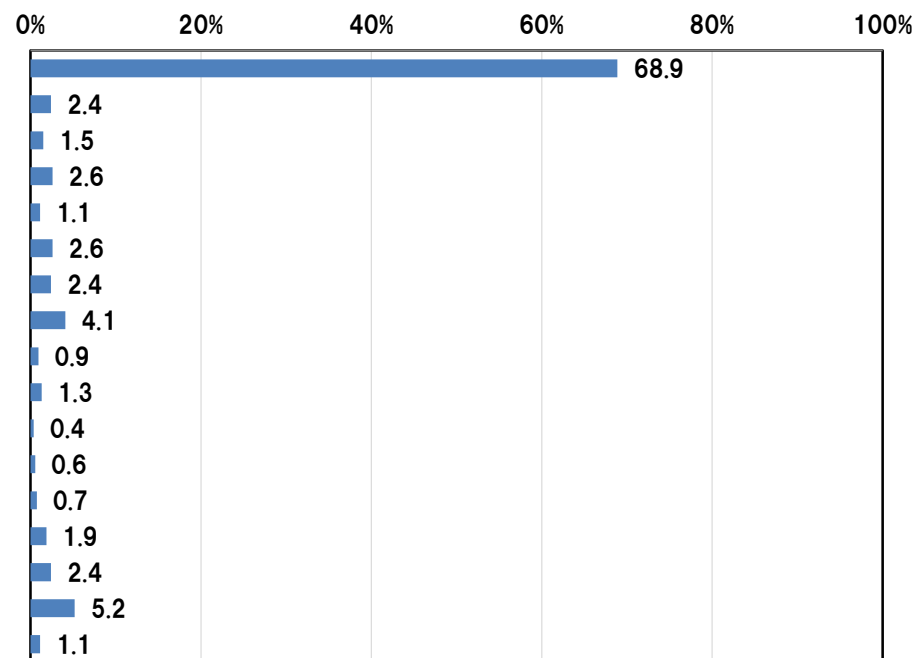
単一選択  
複数選択

## (1) 回答企業の主要業種

本調査の回答者は、7割が製造業、3割がその他の業種であり、各社につき1名が回答している。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。

全体		実数	%
1	製造業	372	68.9
2	建築業	13	2.4
3	電気・ガス・熱供給・水道業	8	1.5
4	情報通信業	14	2.6
5	運輸業	6	1.1
6	卸売業	14	2.6
7	小売業	13	2.4
8	金融業、保険業	22	4.1
9	不動産業、物品賃貸業	5	0.9
10	専門・技術サービス業	7	1.3
11	宿泊業	2	0.4
12	飲食サービス業	3	0.6
13	生活関連サービス業、娯楽業	4	0.7
14	教育、学習支援業	10	1.9
15	医療、福祉	13	2.4
16	サービス業(他に分類されないもの)	28	5.2
17	その他	6	1.1



### その他(自由記述)

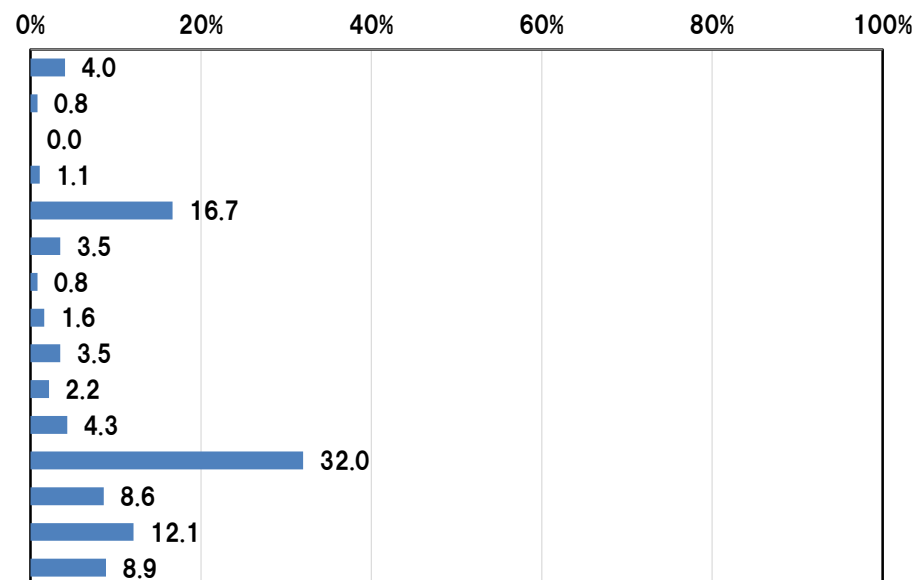
- エンジニアリング
- コンサルタント
- 研究機関
- 人材派遣
- 政府開発援助
- 物流

## (2) 製造業における主要業種

ご回答いただいた製造業の業種内訳としては、電気・情報通信機械・電子部品が約1/3、化学+機械が約1/3、残りの業種が約1/3という配分である。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。

全体		実数	%
1	食料品	15	4.0
2	繊維工業	3	0.8
3	家具・装備品	0	0.0
4	パルプ・紙・紙加工品	4	1.1
5	化学	62	16.7
6	プラスチック製品	13	3.5
7	ゴム製品	3	0.8
8	窯業・土石製品	6	1.6
9	鉄鋼	13	3.5
10	非鉄金属	8	2.2
11	金属製品	16	4.3
12	電気・情報通信機械・電子部品	119	32.0
13	はん用、生産・業務用機械	32	8.6
14	輸送用機械	45	12.1
15	その他の製造業	33	8.9



### その他 (自由記述)

かばん製造  
その他製造  
パチンコ・パチスロ  
医薬品  
医療機器  
医療器具

印刷  
印刷業  
化粧品  
家電製品  
機械  
空調機器

光学機器  
産業機械  
自動車  
自動車部品  
重電機器  
食品模型製造

生産設備  
精密機器  
製薬  
石油  
素材  
電気・電子

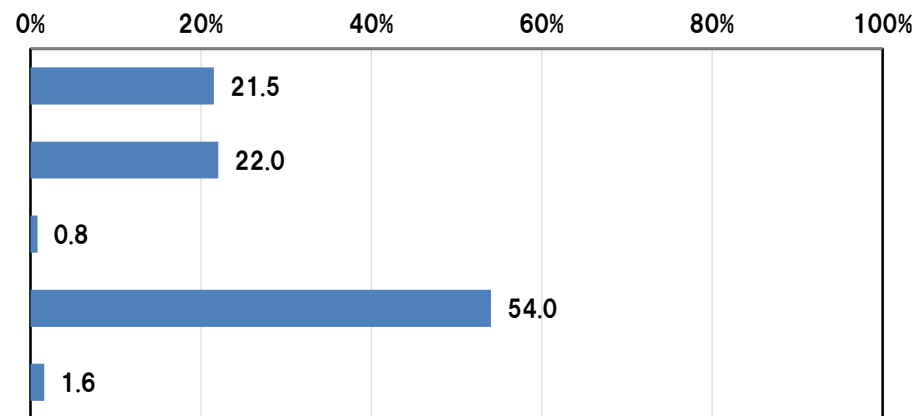
動物用医薬品製造  
遊技機

### (3) 回答した製造業の主力製品について

ご回答いただいた製造業においては、最終製品メーカーが約半分を占め、素材メーカーと部品メーカーがそれぞれ約2割を占めている。

(SA) F3. 貴社の主力製品についてお教えてください。

		実数	%
全体		372	100.0
1	素材	80	21.5
2	部品	82	22.0
3	賃加工	3	0.8
4	最終製品	201	54.0
5	その他	6	1.6



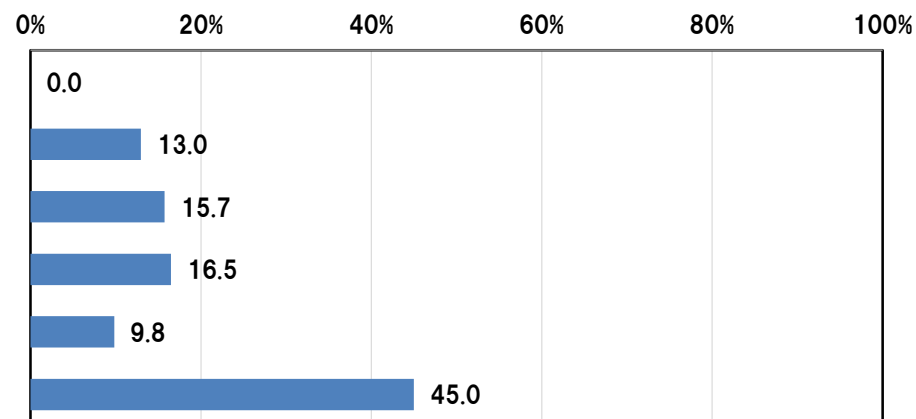


#### (4) 回答企業の従業員数について

回答者は、従業員数300人以上の企業から選定した。3,000人以上の従業員を有する大企業が回答企業の45%を占めており、1,000人以上で見れば約7割に達している。

(SA) F4. 貴社の従業員数について教えてください。

		実数	%
全体		540	100.0
1	300人未満	0	0.0
2	300人～499人	70	13.0
3	500人～1,000人	85	15.7
4	1,000～1,999人	89	16.5
5	2,000人～2,999人	53	9.8
6	3,000人以上	243	45.0

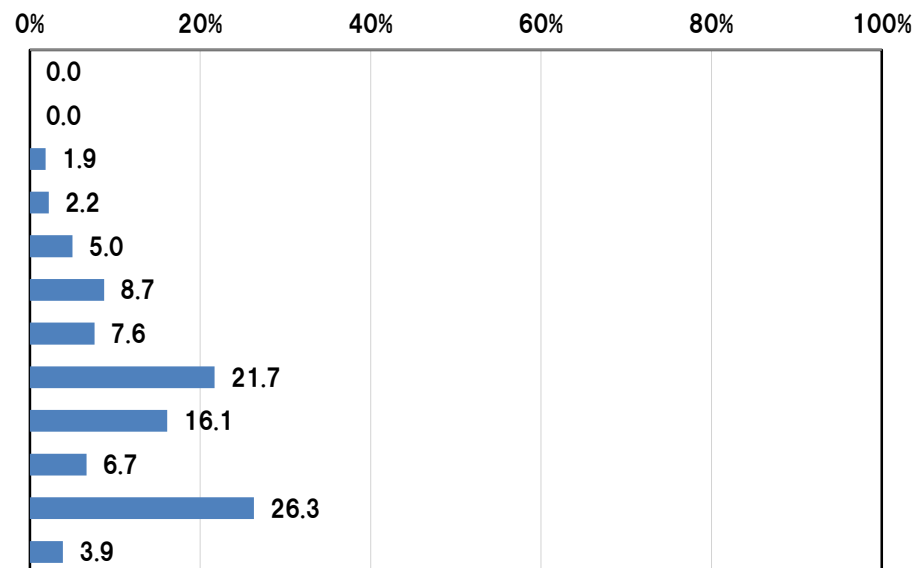


## (5) 回答企業の資本金について

回答企業のうち約7割は資本金が10億円以上であり、1,000億円以上である企業が26%に達している。

(SA) F5. 貴社の資本金について教えてください。

		実数	%
全体		540	100.0
1	500万円未満	0	0.0
2	500～1,000万円未満	0	0.0
3	1,000～3,000万円未満	10	1.9
4	3,000～5,000万円未満	12	2.2
5	5,000万～1億円未満	27	5.0
6	1億～3億円未満	47	8.7
7	3億～10億円未満	41	7.6
8	10億～100億円未満	117	21.7
9	100億～500億円未満	87	16.1
10	500億～1,000億円未満	36	6.7
11	1,000億円以上	142	26.3
12	資本金はない	21	3.9

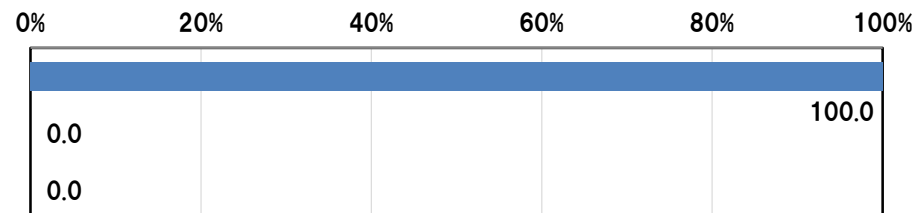


## (6) 回答企業が営業秘密を保有する割合について

回答企業はすべて営業秘密を有している。

(SA) F6. 貴社には、営業秘密（顧客名簿、固有の技術・業務ノウハウ、固有の生産技術等の、厳に秘匿している業務価値の高い情報）はありますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	ある	540	100.0
2	ない	0	0.0
3	わからない	0	0.0

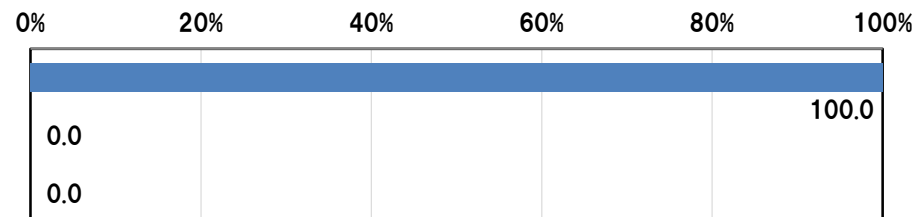


## (7) 回答者の営業秘密取扱いの状況について

回答者はすべて、業務において営業秘密の取り扱いに係っている。

(SA) F7. あなたご自身は、業務において営業秘密の取り扱いに関わっていますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	自身に関わっている	540	100.0
2	自身では関わっていない	0	0.0
3	わからない	0	0.0



### 3. 単純集計

凡例:

SA

MA

FA

単一選択

複数選択

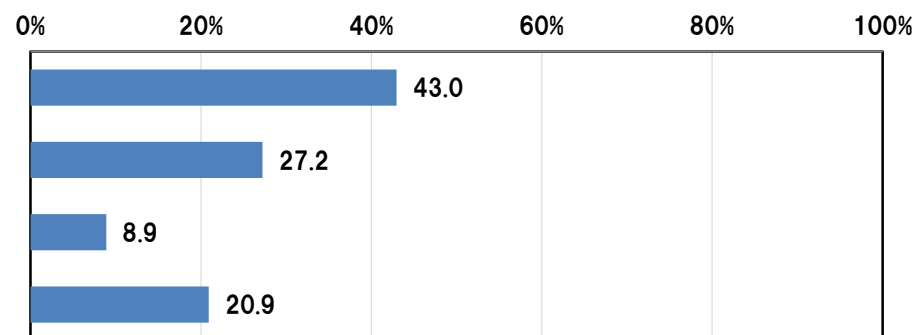
自由記述

## (1) 不正競争防止法や営業秘密の3要件の浸透状況について

大企業であっても、不正競争防止法の措置も営業秘密の3要件も知らない企業が約2割存在している。営業秘密の3要件を理解している企業は約半分に過ぎない。

(SA) 問1. 不正競争防止法で措置が可能なこと、営業秘密の3要件をご存じですか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	不正競争防止法で措置が可能なことも、営業秘密の3要件も理解している	232	43.0
2	不正競争防止法の措置は知っているが、営業秘密の3要件を正確に知らない	147	27.2
3	不正競争防止法の措置は知らないが、営業秘密の3要件は理解している	48	8.9
4	不正競争防止法の措置も、営業秘密の3要件も知らない	113	20.9

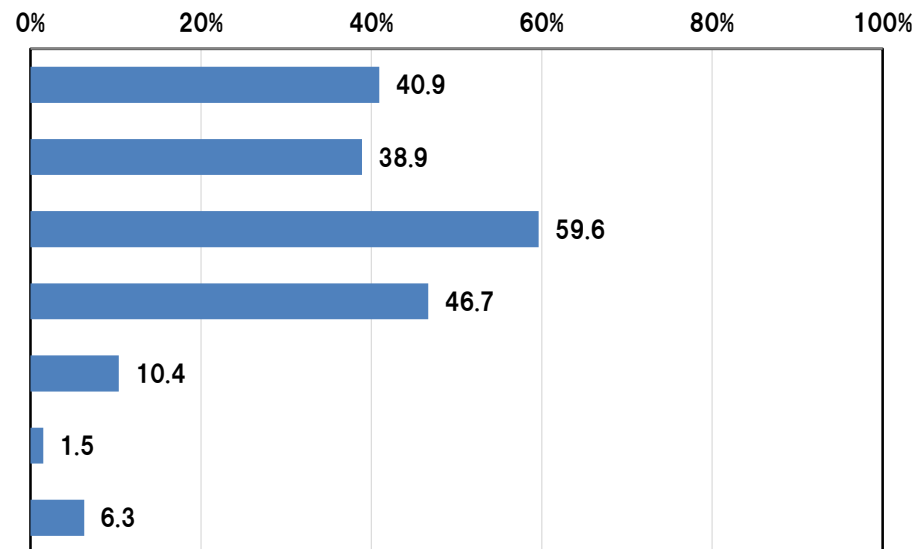


## (2) 営業秘密管理にあたり参考にしている情報について

経済産業省が公表している営業秘密管理指針は約4割の企業に活用されているが、個人情報保護、技術流出防止、内部不正防止等と関係が深いものとして捉えられている。

(MA) 問2. 営業秘密の漏えいを防止するとともに、不正競争防止法の営業秘密の3要件を満たすための情報管理にあたっては、何を参考に取り組んでいますか。

全体		実数	%
1	営業秘密管理指針(経済産業省策定)	221	40.9
2	技術流出防止指針(経済産業省策定)	210	38.9
3	個人情報保護ガイドライン(経済産業省策定)	322	59.6
4	組織における内部不正防止ガイドライン((独)情報処理推進機構策定)	252	46.7
5	特に何も参考にしていない	56	10.4
6	その他	8	1.5
7	営業秘密管理措置を何も行っていない	34	6.3



### その他(自由記述)

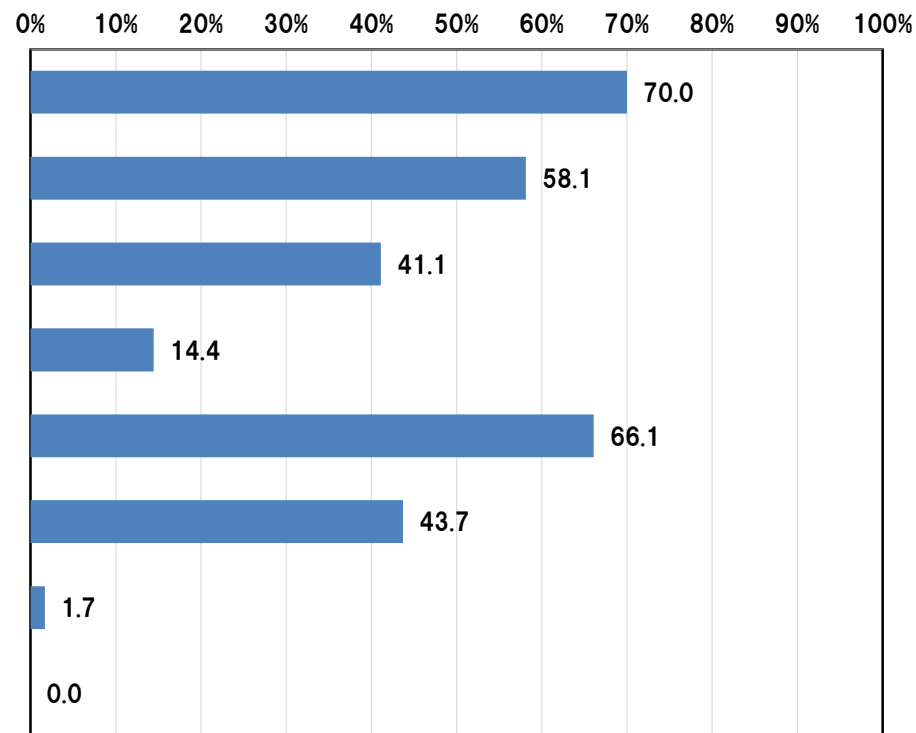
- Isma
- WEB上の検索
- 会社作成のガイドライン
- 客管理
- 金融庁
- 金融庁監督指針、検査マニュアル
- 社内内規
- 内規諸々

### (3) 営業秘密として管理している情報の実態について

「顧客名簿」「製品の品質・機能等を維持・向上させる技術情報・ノウハウ」を営業秘密として管理している企業が特に多い。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

全体		実数	%
1	顧客名簿等の顧客情報	378	70.0
2	納入元・納入先の情報や仕入れ・納入価格情報などの取引情報	314	58.1
3	マーケティング情報などの適切な経営判断に資する情報	222	41.1
4	接客マニュアル等	78	14.4
5	製品の品質・機能等を維持・向上させる(製品それ自体に営業秘密の効果が発現する)技術・ノウハウ(作業標準、設計・品質基準、金型など)	357	66.1
6	低コスト化や作業効率化、省エネルギー化、製品の品質の安定化等のための(製品それ自体には営業秘密の効果が発現されない)技術・ノウハウ(作業標準、設計・品質基準、検査方法など)	236	43.7
7	その他	9	1.7
8	自社にどのような営業秘密があるのか把握していない	0	0.0



#### その他(自由記述)

- ブランド管理
- 監査手法等
- 研究開発情報
- 新規開発技術の情報
- 設備に関する情報
- 知財、研究成果
- 知的財産として出願されていない非公知技術情報のすべて
- 特許明細書
- 防衛省関連

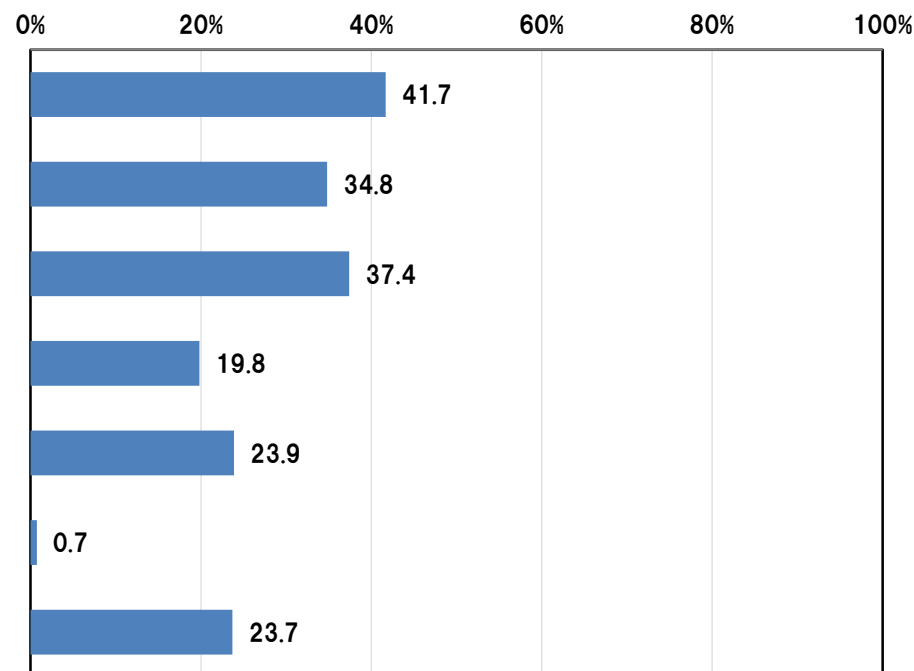


## (4) 企業のオープン・クローズ戦略の実態について

現状では、特許要件を満たしていれば全て出願する企業が約4割に達している一方で、製造技術やコア技術を秘匿化すると答えた企業が3割を超えている。オープン・クローズ戦略を持たない企業は約1/4に留まる。

(MA) 問4. 自社の技術のうち、どのような技術の特許出願せず秘匿化(営業秘密として管理)しますか。

全体		実数	%
1	自社で開発した技術はすべて特許出願するが、特許要件を欠くなど、特許にできない部分のみを秘匿化する	225	41.7
2	製品の製造方法など、リバースエンジニアリングなどでは容易に判明しない技術は、できるだけ秘匿化する	188	34.8
3	コア技術に係る情報は、基本的に秘匿化する	202	37.4
4	特許の存続期間(20年)を超えて優位性を保つことのできる技術(他社がキャッチアップしにくいと考えられる技術)については秘匿化する	107	19.8
5	製品の製造方法など、特許権を取得したとしても、その侵害が疑われた際に、侵害事実の立証が困難等の理由により権利行使するのが困難と考えられる技術は秘匿化する	129	23.9
6	その他	4	0.7
7	技術の特許化・秘匿化を決定するための基準・考え方は特にない	128	23.7



### その他(自由記述)

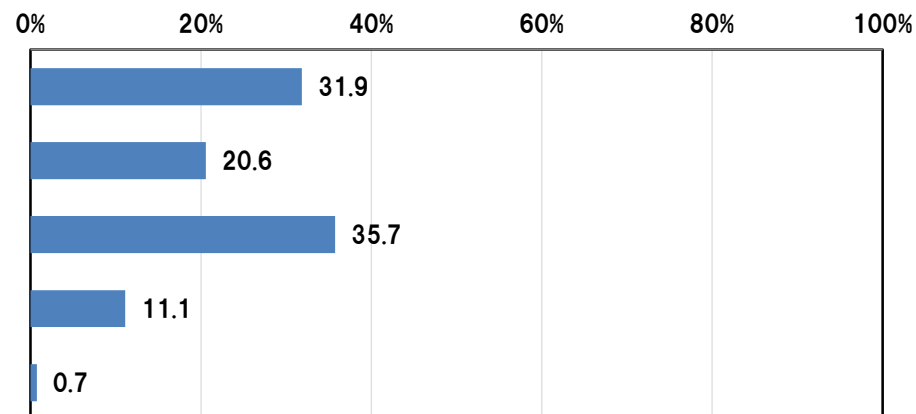
- 秘匿化の考え方についてはわからない
- 都度判断
- 秘匿化はケースバイケース
- わからない

## (5) 研究開発等の投下費用の増加について

コア技術の研究開発の投下費用がここ5～10年間で増加していると回答した企業が約5割に達しており、技術情報保護の必要性はますます高まってきている。

(SA) 問5. 特許や営業秘密になりうる技術に対する研究開発等の投下費用は、ここ5年～10年の間に増大していますか。

全体		実数	%
1	コア技術も含め研究開発に対する投下費用全体が増大している	172	31.9
2	全体として増大していないが、コア技術については増大している	111	20.6
3	コア技術に対する投下費用も含めて投下費用全体は変わらない	193	35.7
4	コア技術に対する投下費用も含めて投下費用全体が減少している	60	11.1
5	その他	4	0.7



### その他(自由記述)

- わからない
- 研究開発が存在しない
- 研究開発はしていない

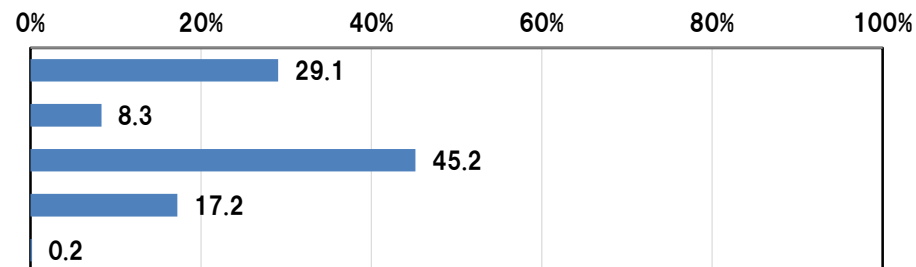
## (6) 特許要件を満たす発明の秘匿化動向について

約3割の回答企業が、特許要件を満たすと思われる発明を敢えて秘匿化するケースが増えているとしている一方で、1割弱の回答企業がむしろ減っていると回答している。

現時点では、一部の意識の高い企業が発明の秘匿化に動いているといった状況である。

(SA) 問6. 特許要件を満たすと思われる発明について、あえて秘匿化を選択することは、ここ5年～10年の間に増えていますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	増えている	157	29.1
2	減っている	45	8.3
3	変わらない	244	45.2
4	分からない	93	17.2
5	その他	1	0.2

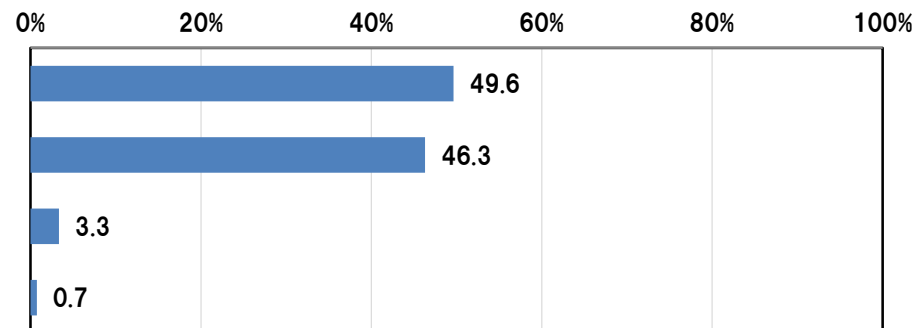


## (7) 最も重要な技術情報が漏えいした場合の損害について

最も重要な技術情報が漏えいした場合、自社の経営に致命的な損害が生じると回答した企業が約半数に達している。

(SA) 問7. 営業秘密とした技術が仮に漏えいした場合には、最も重要な技術の場合でどのような損害が想定されますか。

全体		実数	%
1	他社に対する競争優位性が著しく阻害され、自社の経営に致命的なレベルの損害を与える	268	49.6
2	一定の損害は発生するが、経営に影響を与えるようなレベルではない	250	46.3
3	営業秘密が漏れてもほとんど損害はない	18	3.3
4	その他	4	0.7



### その他(自由記述)

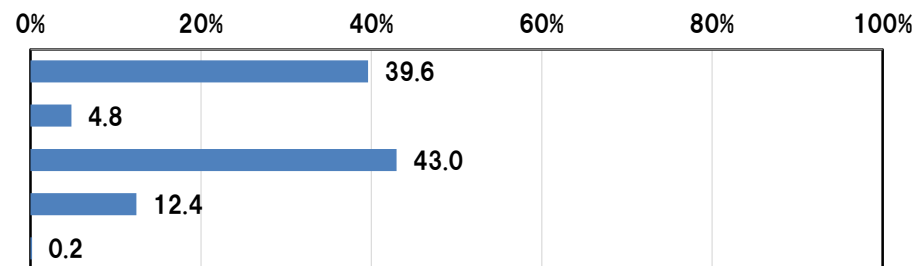
- 会社の信用
- 業務停止
- 顧客からの信頼へ影響がある
- 取引中止

## (8) 営業秘密を他社と共有する機会について

自社または他社の営業秘密を企業間取引の際に共有することがここ5～10年の間に増えていると回答した企業が約4割に達しており、実態として起こりやすい状況にあると言える。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	増えている	214	39.6
2	減っている	26	4.8
3	変わらない	232	43.0
4	分からない	67	12.4
5	その他	1	0.2



### その他(自由記述)

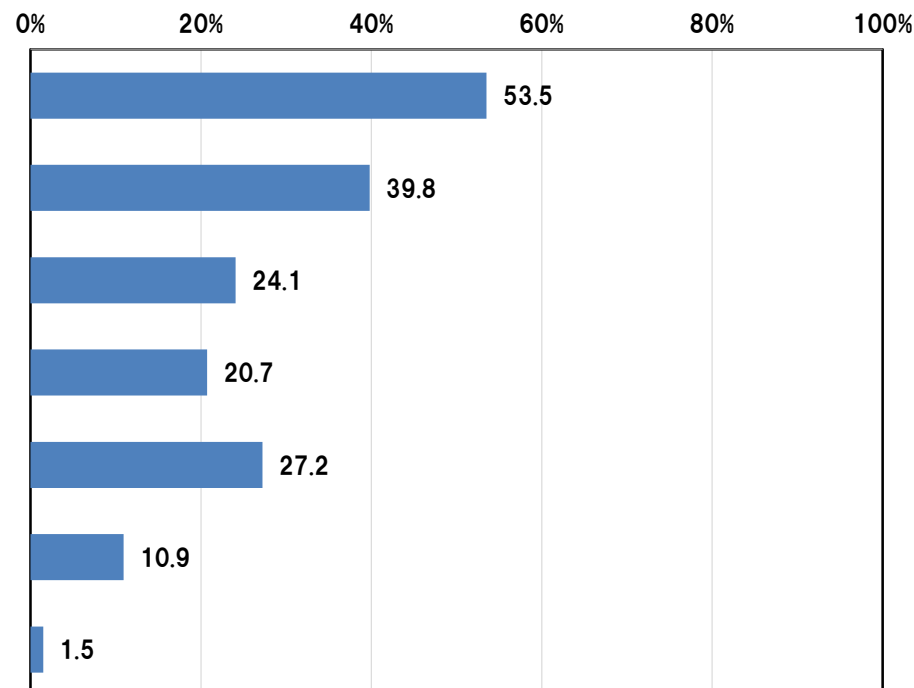
- もともとそのような共有はしていない。

## (9) 営業秘密管理を検討する際の課題について

営業秘密を複数の部署にまたがって管理しているため、管理を徹底することが難しいと答えた企業が半数以上に達している。セキュリティ強化費用の捻出、委託先での管理徹底に苦心している企業も多い。一方で、どの程度管理措置を行えば法的保護を受けられるのかが不明確とした企業が約1/4あった。

(MA) 問9. 技術やノウハウ、顧客情報の流出を防ぐため、営業秘密管理を検討するに当たって、貴社の課題は何ですか。

全体		実数	%
1	同じ営業秘密を複数の部署にまたがって管理しており、従業員間・部署間の意識のばらつきや、各部署における業務効率の維持等の観点から、それぞれの部署での管理を徹底するのが難しい	289	53.5
2	営業秘密管理を徹底するための情報セキュリティ強化などに費用がかかる(予算捻出のための社内調整が難しい)	215	39.8
3	どの程度の営業秘密管理措置を行えば法的保護を受けられるのかが不明確であり、営業秘密管理措置の焦点を絞れない	130	24.1
4	営業秘密管理が部署横断的な課題であるのに、司令塔的部署が不在であること等により、会社全体で統一的な取組を行うことが難しい	112	20.7
5	業務委託先での管理を徹底するのが難しい(業務委託先でちゃんと情報管理がなされているのか分からない)	147	27.2
6	技術の権利化・秘匿化の選択の在り方や、日頃の営業秘密管理の方法などについて相談をできる機関がなく、どのような取組から行えば良いか分からない	59	10.9
7	その他	8	1.5



### その他(自由記述)

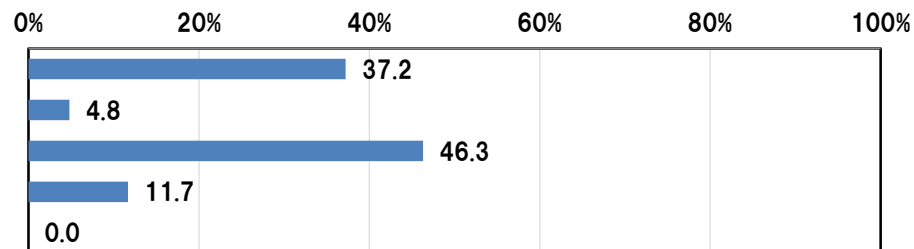
- OBの取り扱い
- 機密情報を持った社員の引き抜き
- 現時点では、特になし
- 大きな課題無いと思われる
- 部署単位での管理が多いこと
- 無い

## (10) 営業秘密管理に要する人員・時間・費用について

営業秘密管理に要する人員・時間・費用がここ5～10年間に増加していると回答した企業が4割弱に達しており、企業の管理負担は増加傾向にあると言える。

(SA) 問10. 営業秘密管理に要する人員・時間・費用は、ここ5年～10年の間に増大していますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	増えている	201	37.2
2	減っている	26	4.8
3	変わらない	250	46.3
4	分からない	63	11.7
5	その他	0	0.0

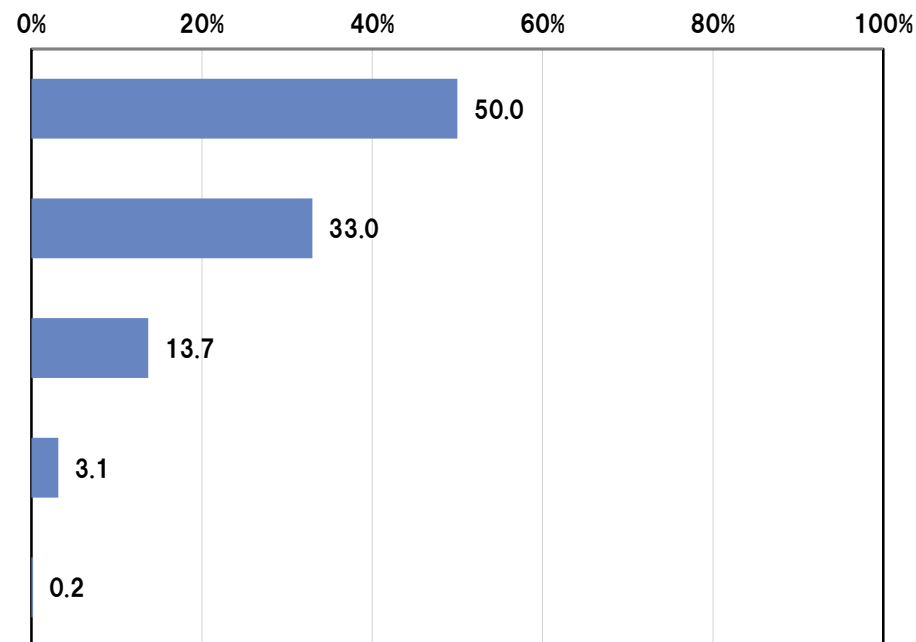


## (11) 暗黙知の文書化・可視化について

社員が体得している重要技術（暗黙知）の文書化・可視化については意識が高く、部分的に取り組んでいる企業も含めればその割合は8割を超えている。

(SA) 問11. 社員が体得している重要技術（製品製造のキモになるノウハウなどの暗黙知）に関して、貴社ではどの程度文書化・可視化して管理していますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	基本的に重要技術は全て作業標準や設計・品質基準等として文書化して管理している	270	50.0
2	重要技術は出来るだけ文書化・可視化するように努めているが、重要技術の内容が感覚的であるなどの理由により文書化することが困難であるものも存在するため、そのようなものについては口頭での注意を実施している	178	33.0
3	特に理由はないが、個別の技術情報について文書化して管理はしておらず、口頭での注意を実施している	74	13.7
4	自社にとって何が営業秘密であるのか把握できておらず、文書化・可視化はおろか、口頭での注意も来ていない	17	3.1
5	その他	1	0.2



### その他（自由記述）

- 重要な技術は文書化保管され、各々の重要管理文書毎に個人に閲覧権限（パスワード）があり、容易に流出しない様に管理されている

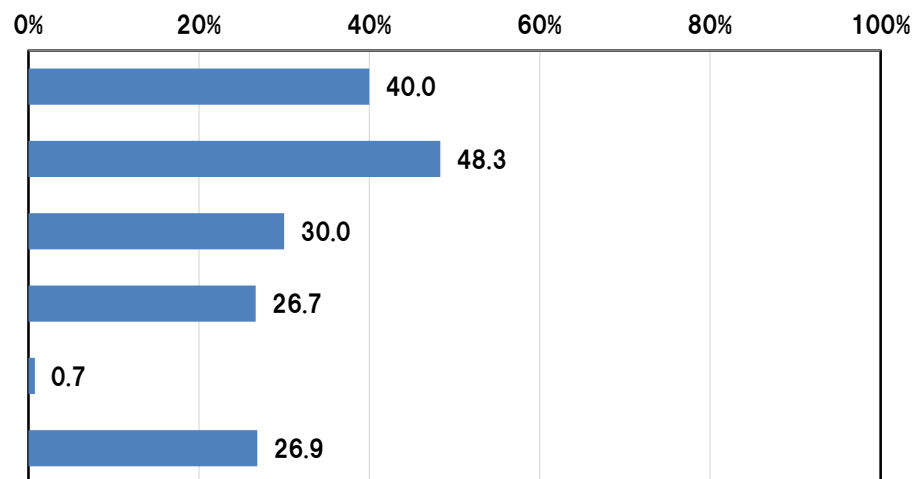


## (12) 営業秘密管理に係る相談窓口への期待について

営業秘密管理に係る相談窓口に対する期待は高く、特に、技術的な営業秘密の管理方法について相談したいという企業が約半数に達する。その他、4割の企業がオープン・クローズ戦略の実装について相談したいとしている。

(MA) 問12. 営業秘密管理に係る相談窓口があれば利用したいと思いますか。利用したいと考える場合、特にどのような相談をしたいと思いますか。  
(特に該当するもの2つをお選びください)

		実数	%
全体		540	100.0
1	技術情報の権利化・秘匿化の選択の在り方について相談するために利用したい	216	40.0
2	製造ノウハウなどの技術的な営業秘密管理の方法についてアドバイスをもらうために利用したい	261	48.3
3	顧客名簿、接客マニュアルなどの営業情報の管理方法についてアドバイスをもらうために利用したい	162	30.0
4	実際に漏えいの疑義が生じた時に、民事、刑事その他のどのような対応をすればいいのか相談するために利用したい	144	26.7
5	その他	4	0.7
6	利用したいと思わない	145	26.9



### その他(自由記述)

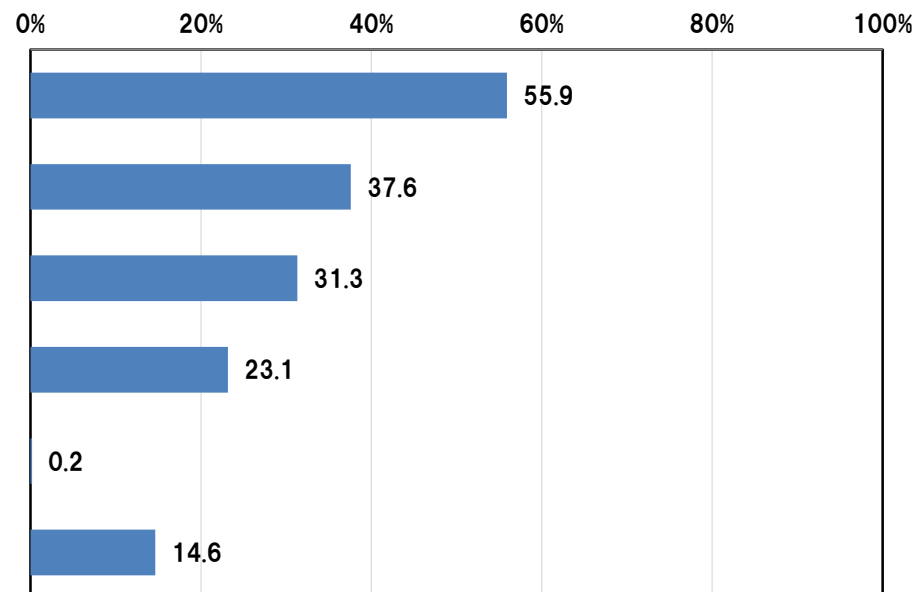
- 国内よりむしろ海外とくに中国が問題であり、相談したとしても実質的に効果がない。
- 事態が起これば考える
- 情報セキュリティ面について、時々相談を実施している
- 担当部署に属していないので判りません

### (13) 新興国等への技術・ノウハウの漏えいリスクの高まりについて

人を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクが高まっていると感じる企業は6割弱に達し、海外拠点からの漏えい(4割弱)や取引先からの漏えい(約3割)に対する意識も高まってきている。サイバー攻撃による漏えいに対する危機意識はまだそれほど高くない。

(MA) 問13. 近年、新興国等の技術力向上もあり、我が国の先端技術が盗取等されるリスクが指摘されています。貴社では技術・ノウハウの漏えいリスクは高まっていると感じられますか。それはどこから感じますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	人材の流動性が高まるとともに、ITの高度化により情報の持ち出しが物理的に容易になったことも相まって、内部不正によるものを含め人材を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクが高まっていると感じる	302	55.9
2	海外進出時に現地の自社工場等から漏えいするリスクが高まっていると感じる	203	37.6
3	取引先に開示した情報が他社に漏えいするなど、取引先を通じた漏えいリスクが高まっていると感じる	169	31.3
4	標的型攻撃など、サイバー犯罪による漏えいリスクが高まっていると感じる	125	23.1
5	その他	1	0.2
6	具体的なリスクは認識していない	79	14.6



#### その他(自由記述)

- いろいろなところから

## (14) 情報漏えい(またはその危険性増加)の実態について

漏洩した情報/その危険性が増えている情報として、コアになる技術情報またはコアになる製造技術情報を指摘した企業が最も多かった。

漏えい先としては、海外(特に中国・韓国)を指摘した例が多く見られた。

(FA) 問14. 実際に漏えいしている場合、どういった技術情報が、どこに漏えいしていますか。(実際には漏えいしていない場合でも、どこへの漏えいの危険性が増していると考えていますか)

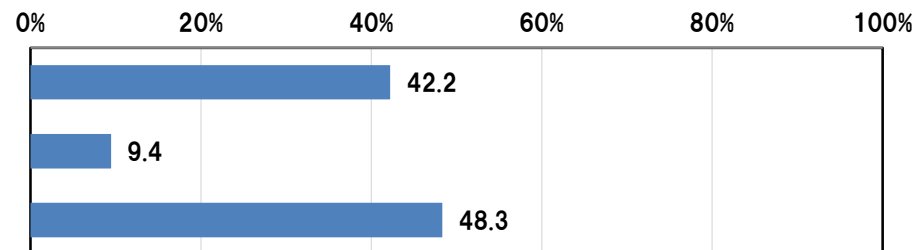
手口等		漏えいした情報		漏えい先	
行ラベル	合計 / 手口等2	行ラベル	合計 / 漏えいした情報2	行ラベル	合計 / 漏えい先2
—	1	IT技術の情報	1	Webサイト	1
サイバー攻撃	23	エコ技術情報	1	アジア諸国の取引先	1
委託業者や協力会社からの不正な持ち出しや第3者提供	1	コア技術-製品情報	1	海外	5
海外の取引先からの不正な持ち出しや第3者提供	7	コア技術情報	56	海外の競合他社	5
海外拠点からの不正な持ち出しや第3者提供	17	コア技術情報、コア製品情報	1	海外の競合他社、雑誌	1
外国人による不正な持ち出し	5	コア技術情報、ノウハウ	1	海外の取引先	1
技術供与先からの不正な第3者提供	1	コア製造技術情報	41	韓国の競合他社	5
技術協力先からの不正な持ち出し	2	コア製品情報	14	技術提携先	1
拠点からの不正な持ち出し	1	コア製品情報、コア製造技術情報	1	競合会社、取引先、顧客企業	1
共同実験からの不正な持ち出し	1	コア設計技術情報	4	競合他社	6
社員がSNSに投稿	1	コスト削減技術情報	1	顧客企業	1
社員による不正な持ち出し	5	ソースコード	1	国内、海外の競合他社	1
社員による不正な第3者提供	3	ノウハウ	15	雑誌	1
社員や取引先からの不正な持ち出し	1	プレゼンテーション資料	4	取引先	6
取引先からの不正な持ち出し	3	運用技術情報	2	新興国	11
取引先からの不正な持ち出しや第3者提供	12	基礎技術情報	1	中国	2
取引先からの不正な第3者提供	5	機密情報	1	中国-韓国	1
取引先による不正な持ち出しや第3者提供	1	契約情報	2	中国-韓国の競合他社	1
退職者による不正な持ち出し	35	個人情報	2	中国-米国	1
中国の取引先からの不正な持ち出しや第3者提供	2	顧客情報	5	中国のWebサイト	1
中国拠点からの不正な持ち出し	1	顧客情報、営業情報、接客ノウハウ	1	中国の競合他社	2
中国拠点からの不正な持ち出しや第3者提供	3	顧客情報、取引情報	3	(空白)	445
中国人による不正な持ち出し	1	取引情報	1	総計	500
不当なコピー製品	1	処方設計情報	3		
(空白)	365	図画・画像	8		
総計	498	販売ノウハウ	2		
		品質管理技術情報	1		
		部品技術情報	1		
		物質関連情報	3		
		(空白)	321		
		総計	499		

## (15) 非親告罪化について

営業秘密侵害を非親告罪とすることに対しては、約4割が賛成、約1割が反対という結果であった。非親告罪化への期待が幅広く浸透しているとまでは言えないのが現状である。

(SA) 問15. 非親告罪にすることについてどう考えますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	賛成である	228	42.2
2	反対である	51	9.4
3	分からない	261	48.3

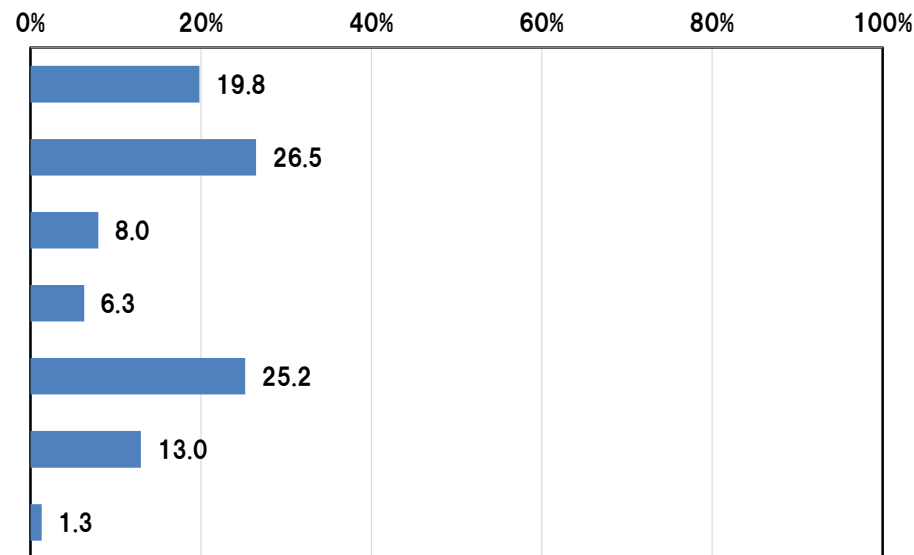


## (16) 営業秘密を悪用して生産された物品の流通と規制について

営業秘密を盗んで生産された物品の流通規制措置が必要とした企業は約7割に達し、5割弱は国内流通または輸出入の疑い事例を経験したとしている。

(SA) 問16. 国内外で、自社の営業秘密を使用して生産された物品の流通が疑われる事例はありますか。流通を規制する措置が必要だと思いますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	実際に国内で流通が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる	107	19.8
2	実際に輸出入が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる	143	26.5
3	実際に国内で流通が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない	43	8.0
4	実際に輸出入が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない	34	6.3
5	実際に流通が疑われる事例はないが、流通を規制する措置は必要だと感じる	136	25.2
6	実際に流通が疑われる事例はなく、流通を規制する措置の必要性は感じられない	70	13.0
7	その他	7	1.3



### その他(自由記述)

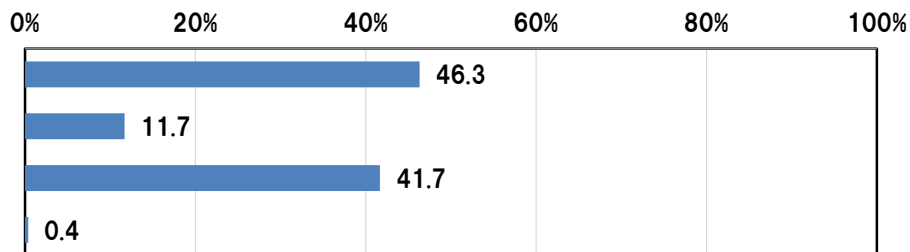
- わからない
- 自社開発物質が勝手に他国で製造販売されている
- 主戦場は海外なので国内法を整備してもあまり意味がない
- 生産はしていない

## (17) 推定規定の導入について

営業秘密侵害訴訟に対し推定規定を導入することについては、5割弱の企業が賛成し、約1割の企業が反対した。大半が推定規定に賛成するということまでは至っていない。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	推定規定の導入について賛成である	250	46.3
2	推定規定の導入について反対である	63	11.7
3	分からない	225	41.7
4	その他	2	0.4



### その他(自由記述)

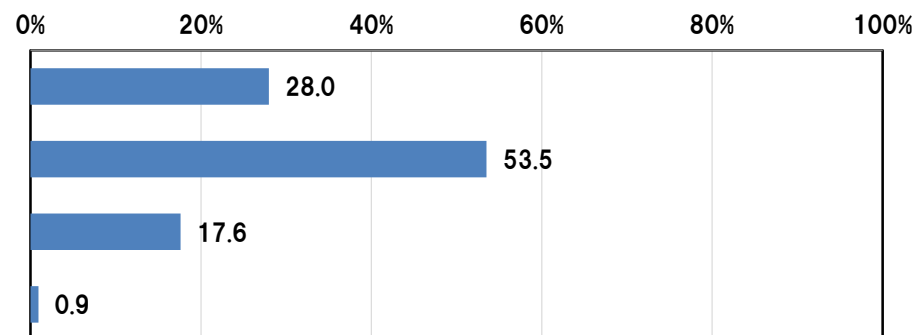
- ・ 訴訟の乱発につながらなければ賛成
- ・ 微妙な問題である。

## (18) 営業秘密の海外サーバーへの保管について

営業秘密情報を海外サーバーに保管していないと明言した企業は約5割にすぎず、約3割の企業は営業秘密情報を海外のサーバーに保管している。

(SA) 問18. 電子データとなっている営業秘密情報について、現行法上は、海外のサーバーで保管されている場合に、当該サーバーから盗み出す行為は処罰対象となるか否かが不明確であるとの指摘がありますが、御社では海外サーバーに保管するものがありますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	海外のサーバーで保管している営業秘密情報がある	151	28.0
2	海外サーバーで保管している営業秘密情報はない	289	53.5
3	どこのサーバーか不明(外部業者が提供するクラウドサービス利用の場合など)なサーバーで保管している営業秘密情報がある	95	17.6
4	その他	5	0.9



### その他(自由記述)

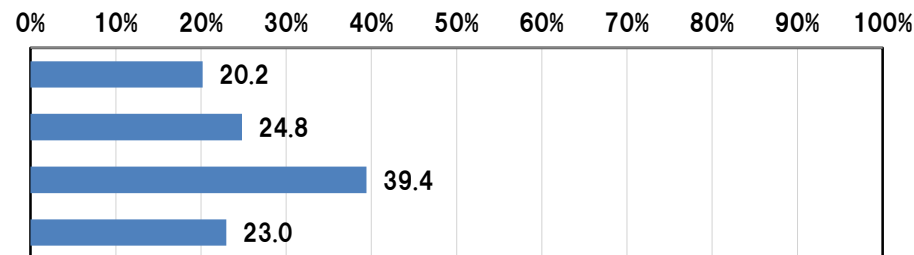
- ない
- バックアップデータまで考えると、不明。
- わからない
- 現地法人の実態が不明。

## (19) 営業秘密の窃取またはその疑い事例について

営業秘密窃取またはその疑い事例については、内部犯行が25%、外部からの攻撃が20%に留まっており、危機感の高まりが見られる程度に留まっている。

(MA) 問19. 実際に営業秘密を窃取されたか、又は、定かではないものの、窃取されたのではないかと疑われる事例がありますか。

		実数	%
全体		540	100.0
1	外部からの具体的な危険性があったと感じた例がある	109	20.2
2	内部において具体的な危険性があったと感じた例がある	134	24.8
3	可能性はあるが、具体的な危険は感じたことがない	213	39.4
4	分からない	124	23.0





## 4. クロス集計

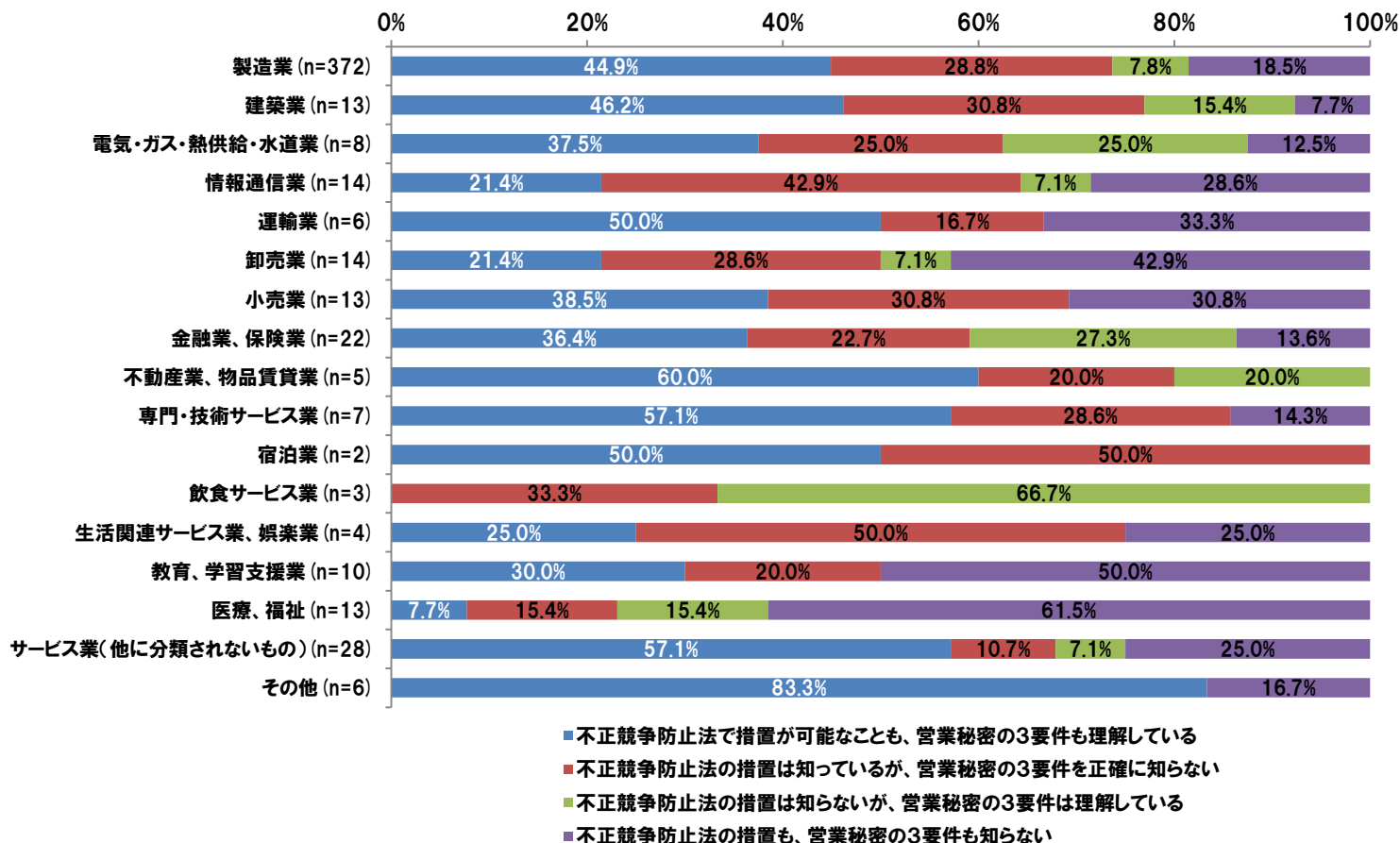
## 4-1 営業秘密侵害への対抗策や営業秘密3要件の浸透状況

### (1) 業種による違い

製造業は平均的な位置取りであると言える。非製造業では、情報通信、卸売・小売、金融・保険、医療・福祉等の業種の意識が低いことが見て取れる。

(SA) 問1. 不正競争防止法で措置が可能なこと、営業秘密の3要件をご存じですか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



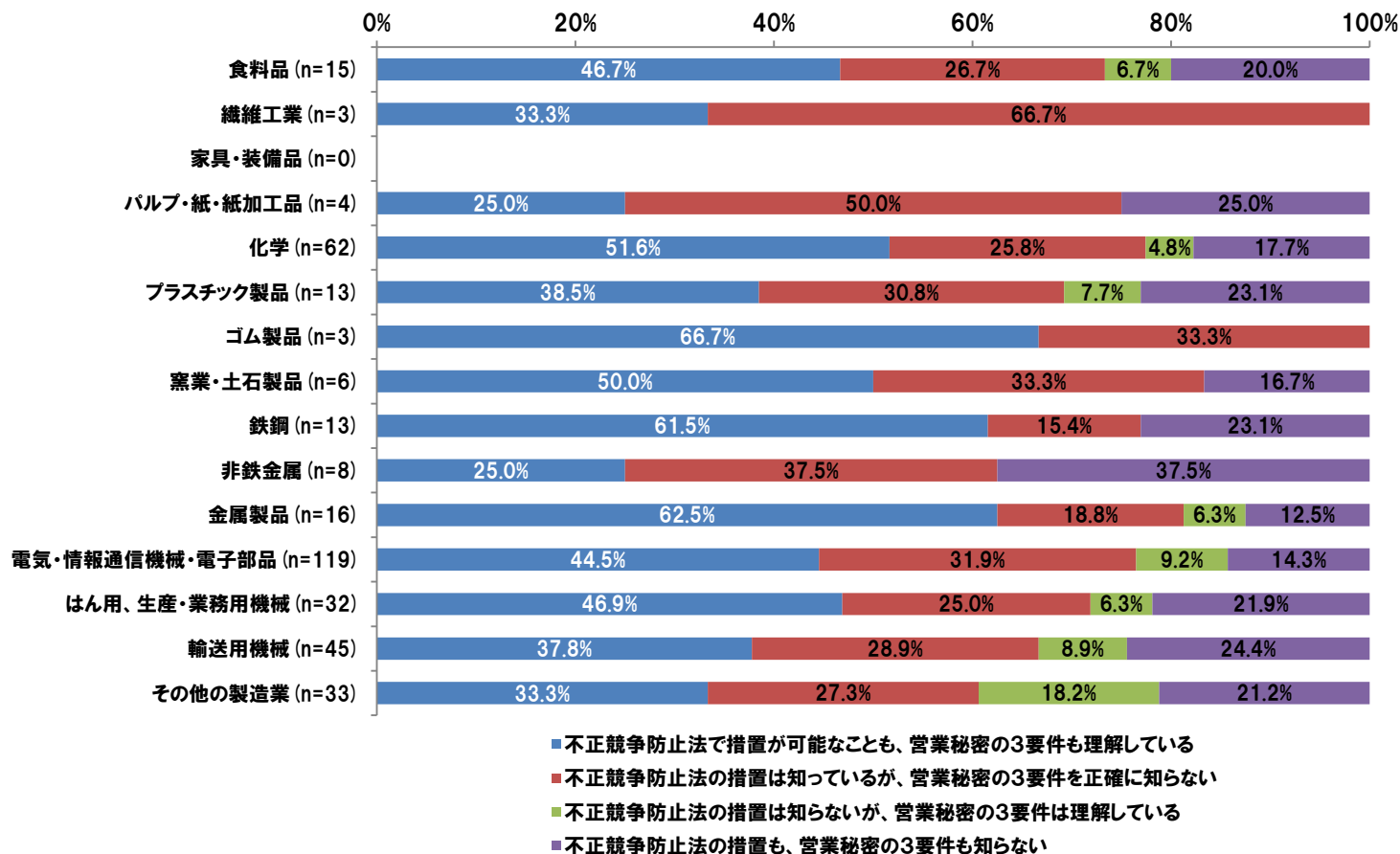
## 4-1 営業秘密侵害への対抗策や営業秘密3要件の浸透状況

### (2) 製造業内の業種による違い

製造業の中では、一部対抗策や3要件の浸透が不十分な業種があるものの、総じて平均的な浸透状況を確保できている。

(SA) 問1. 不正競争防止法で措置が可能なこと、営業秘密の3要件をご存じですか。

(SA) F2. 貴社の主要業種(中分類)についてお教えてください。



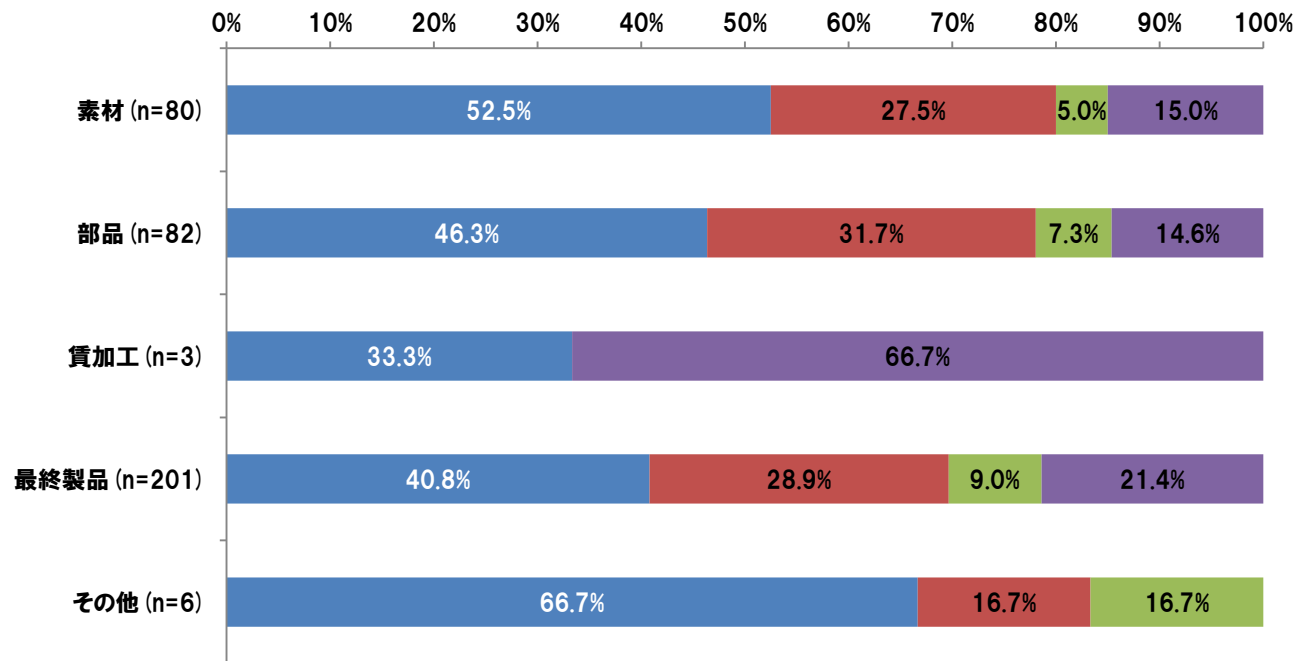
## 4-1 営業秘密侵害への対抗策や営業秘密3要件の浸透状況

### (3) 製造業内の主力製品による違い

素材を製造する企業において、対抗策や3要件の浸透が最も進んでおり、最終製品を製造する企業は浸透が若干遅れている傾向が見て取れる。

(SA) 問1. 不正競争防止法で措置が可能なこと、営業秘密の3要件をご存じですか。

(SA) F3. 貴社の主力製品についてお教えてください。



- 不正競争防止法で措置が可能なことも、営業秘密の3要件も理解している
- 不正競争防止法の措置は知っているが、営業秘密の3要件を正確に知らない
- 不正競争防止法の措置は知らないが、営業秘密の3要件は理解している
- 不正競争防止法の措置も、営業秘密の3要件も知らない

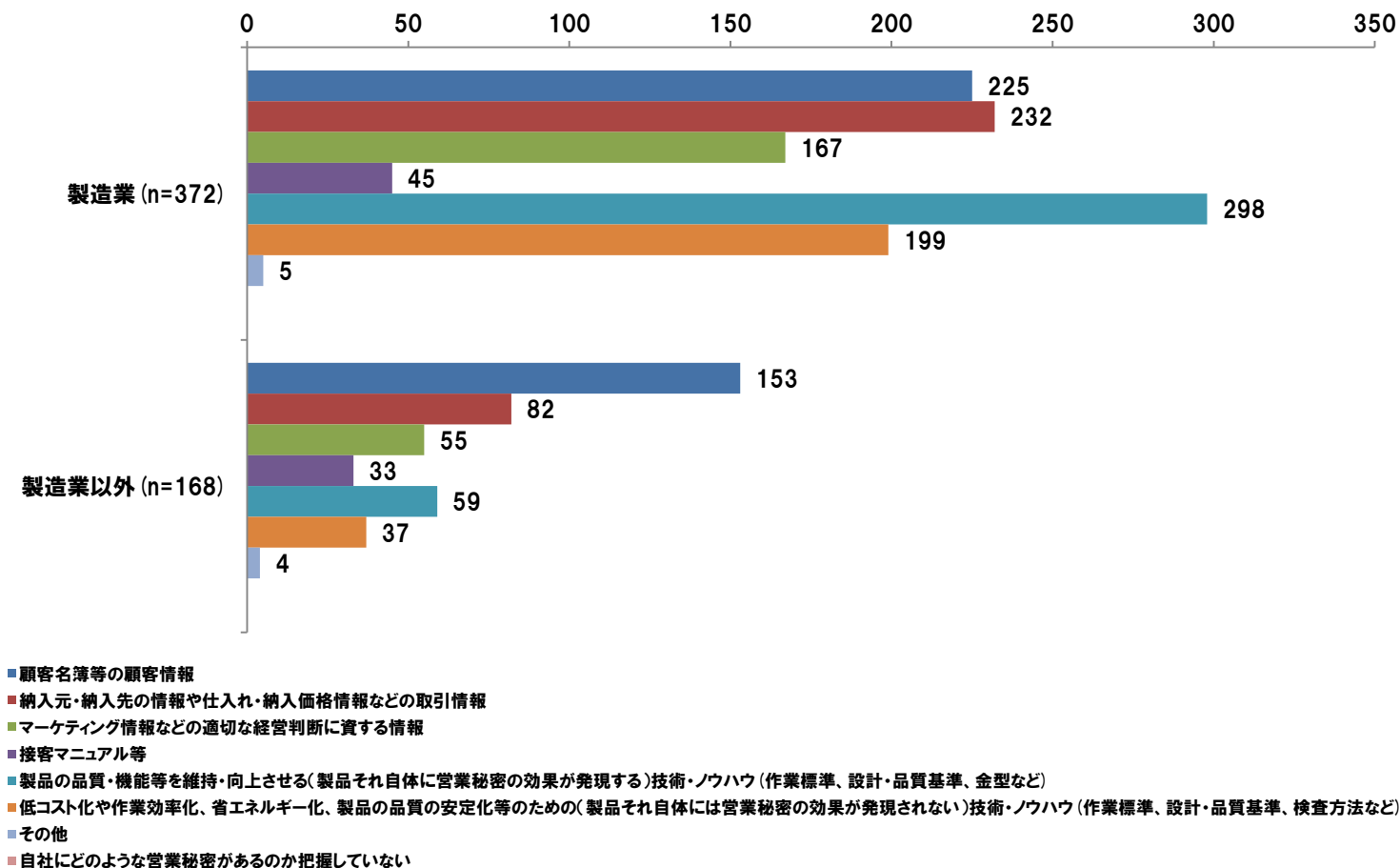
## 4-2 管理している営業秘密の違い

### (1) 業種による違い

製造業、非製造業ともに顧客情報は主要な営業秘密となっている。一方で、製造業においては、取引情報、経営判断に資する情報、技術・ノウハウを営業秘密として管理している割合が高い。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



営業秘密として管理している情報

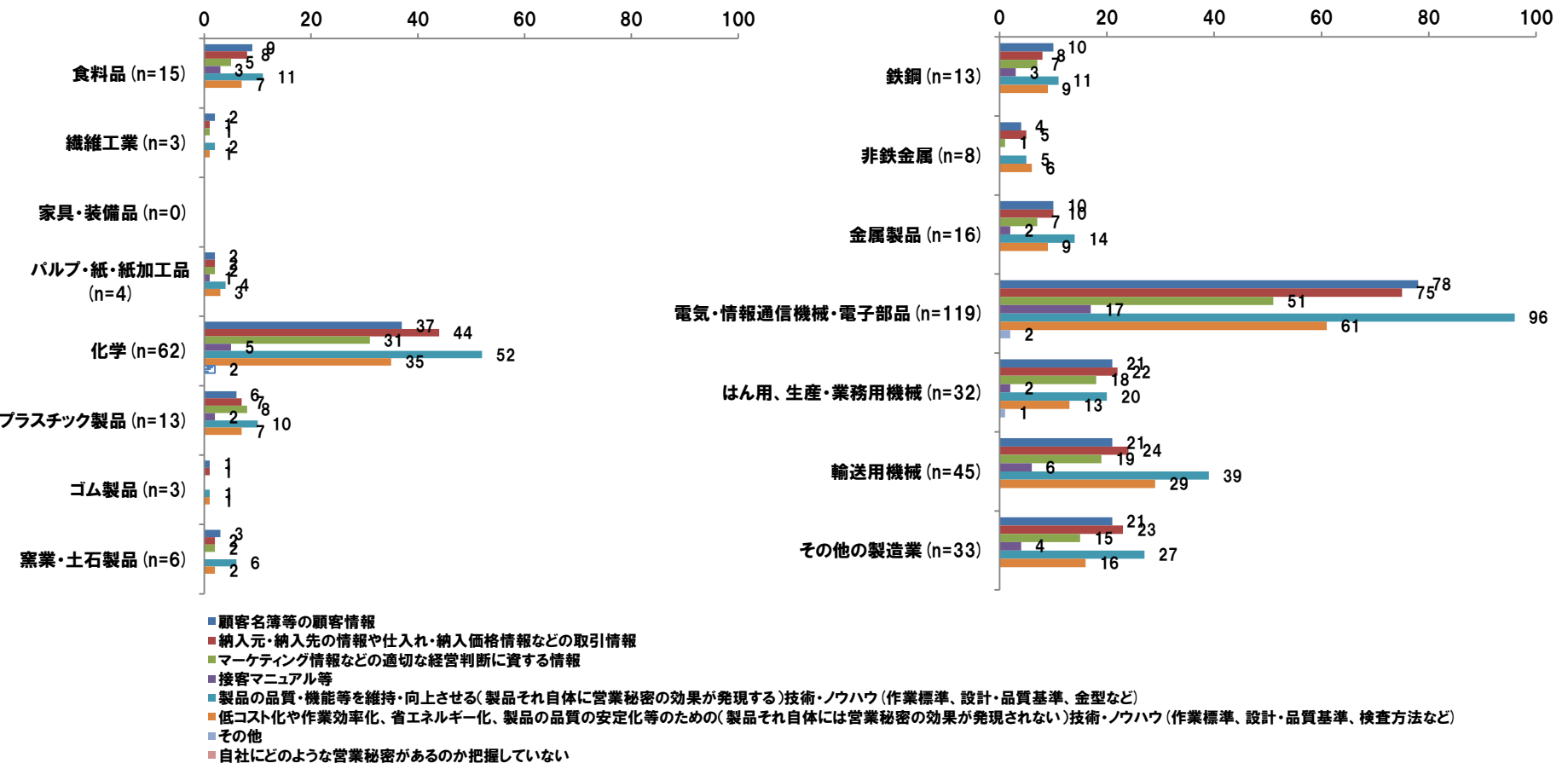
## 4-2 管理している営業秘密の違い

### (2) 製造業内の業種による違い

製造業の業種別で見れば、取引情報、経営判断に資する情報、技術・ノウハウを営業秘密として管理している割合が高いことは一貫している。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) について教えてください。



営業秘密として管理している情報

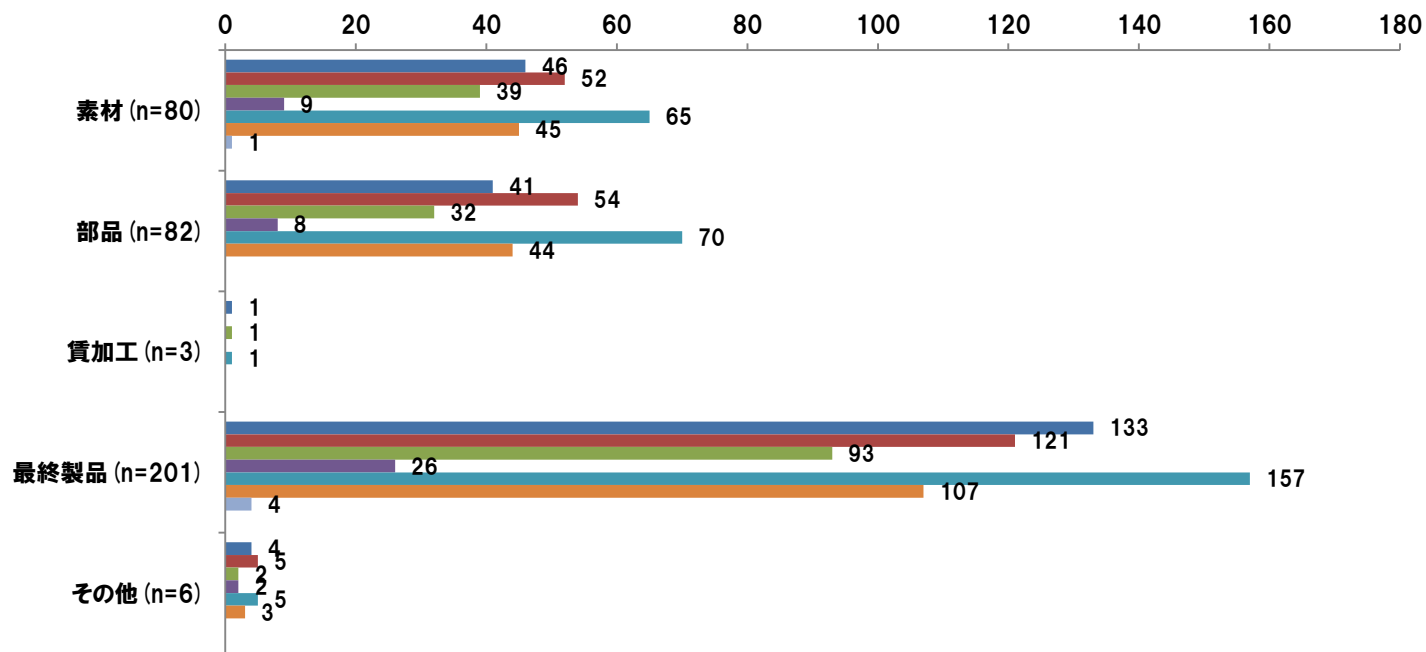
## 4-2 管理している営業秘密の違い

### (3) 製造業内の主力製品による違い

主力製品別で見ても、取引情報、経営判断に資する情報、技術・ノウハウを営業秘密として管理している割合が高いことは一貫している。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品について教えてください。



- 顧客名簿等の顧客情報
- 納入元・納入先の情報や仕入れ・納入価格情報などの取引情報
- マーケティング情報などの適切な経営判断に資する情報
- 接客マニュアル等
- 製品の品質・機能等を維持・向上させる(製品それ自体に営業秘密の効果が発現する)技術・ノウハウ (作業標準、設計・品質基準、金型など)
- 低コスト化や作業効率化、省エネルギー化、製品の品質の安定化等のための(製品それ自体には営業秘密の効果が発現されない)技術・ノウハウ (作業標準、設計・品質基準、検査方法など)
- その他
- 自社にどのような営業秘密があるのか把握していない

### 営業秘密として管理している情報

## 4-2 管理している営業秘密の違い

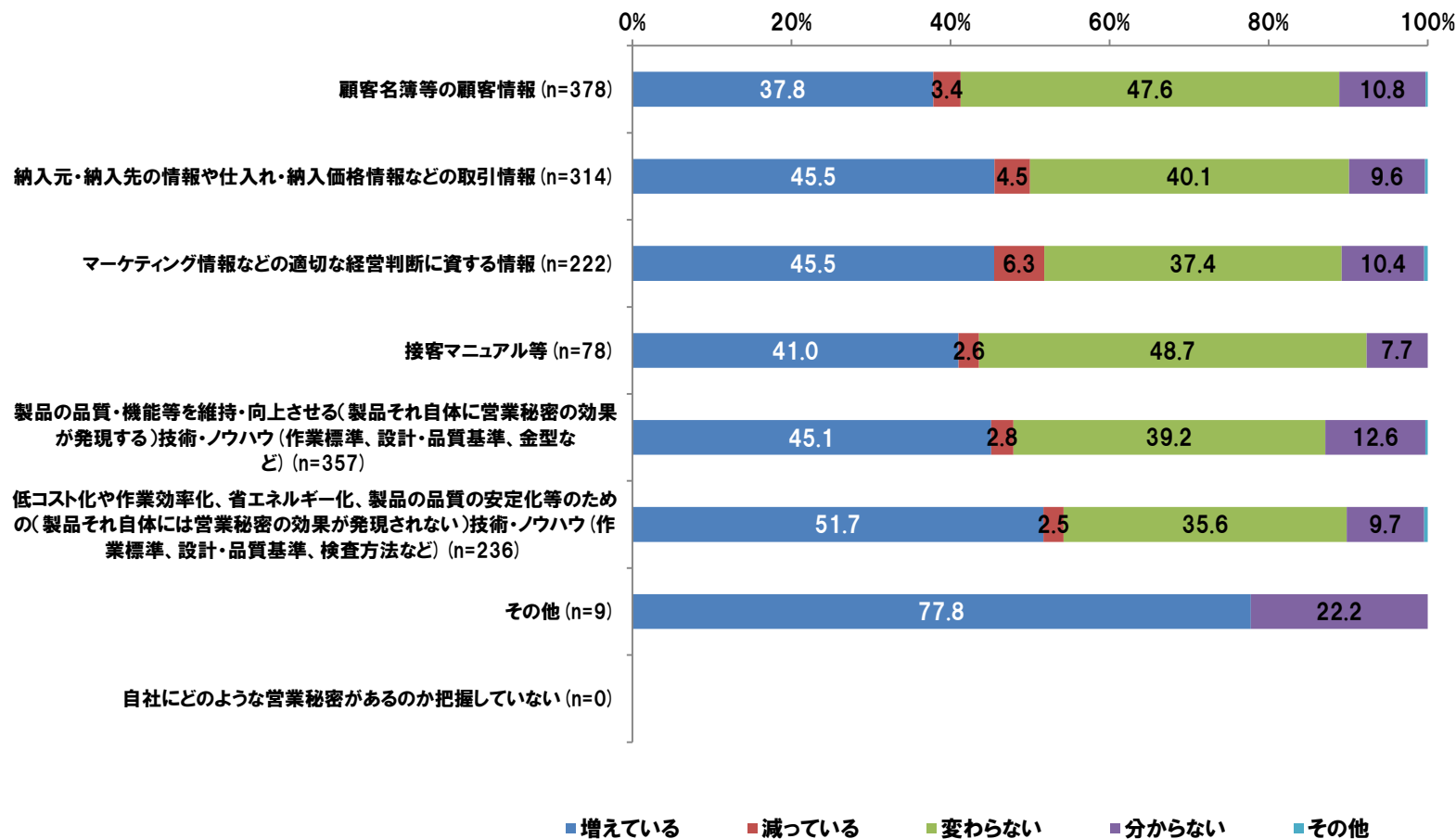
### (4) 管理している営業秘密別の他社との共有状況等の違い

営業秘密として管理している情報の種別により、他社との共有増の傾向に大きな違いはないが、顧客情報の共有は比較的少ない。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

営業秘密として管理している情報



他社との営業秘密の共有等



## 4-2 管理している営業秘密の違い

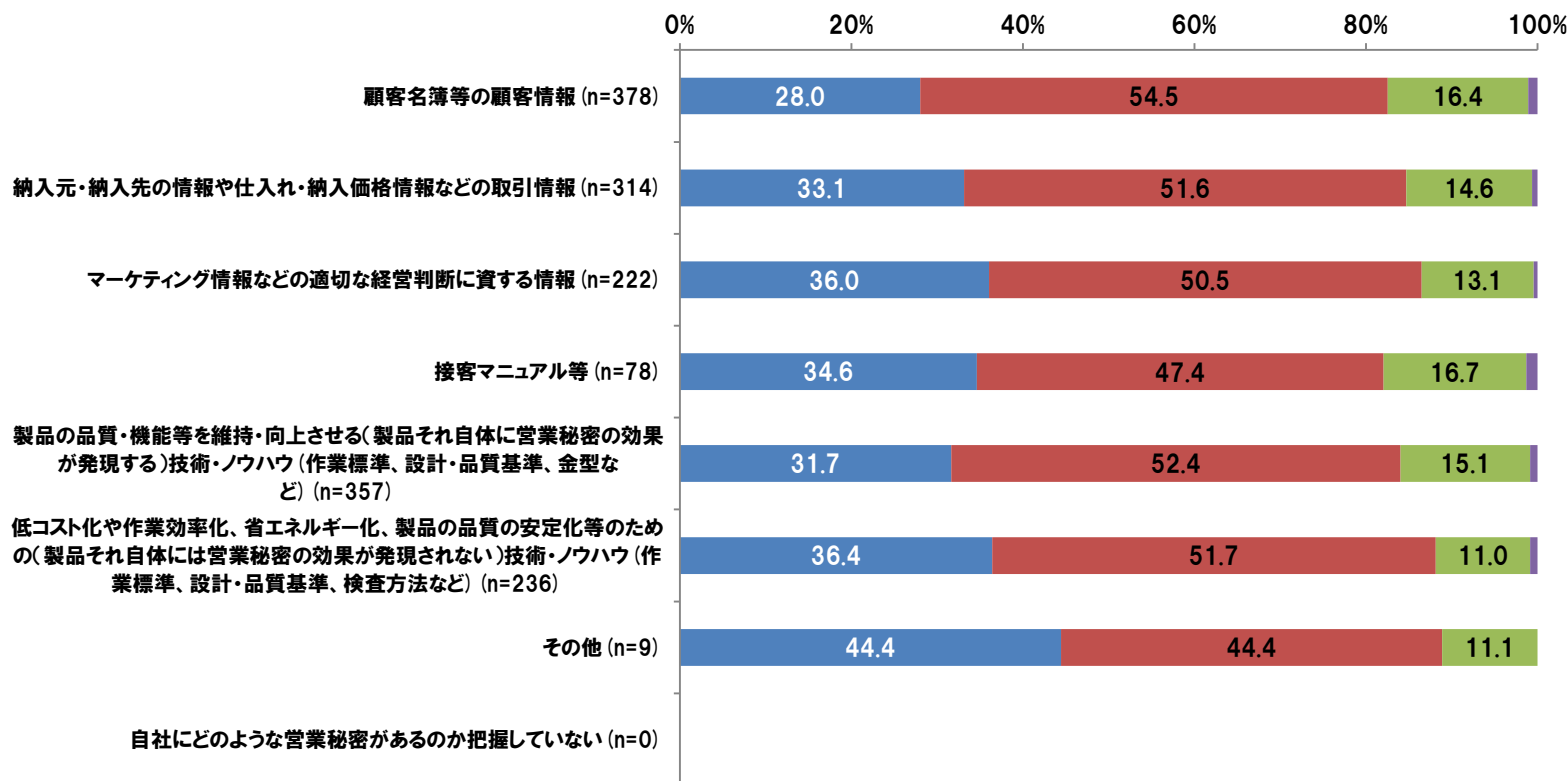
### (5) 管理している営業秘密別の海外サーバーでの保管状況の違い

営業秘密として管理している情報の種別により、海外サーバーでの保管状況に大きな違いはないが、顧客情報はやや少なめになっている。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) 問18. 電子データとなっている営業秘密情報について、現行法上は、海外のサーバーで保管されている場合に、当該サーバーから盗み出す行為は処罰対象となるか否かが不明確であるとの指摘がありますが、御社では海外サーバーに保管するものがありますか。

営業秘密として管理している情報



- 海外のサーバーで保管している営業秘密情報がある
- 海外サーバーで保管している営業秘密情報はない
- どこのサーバーか不明 (外部業者が提供するクラウドサービス利用の場合など) なサーバーで保管している営業秘密情報がある
- その他

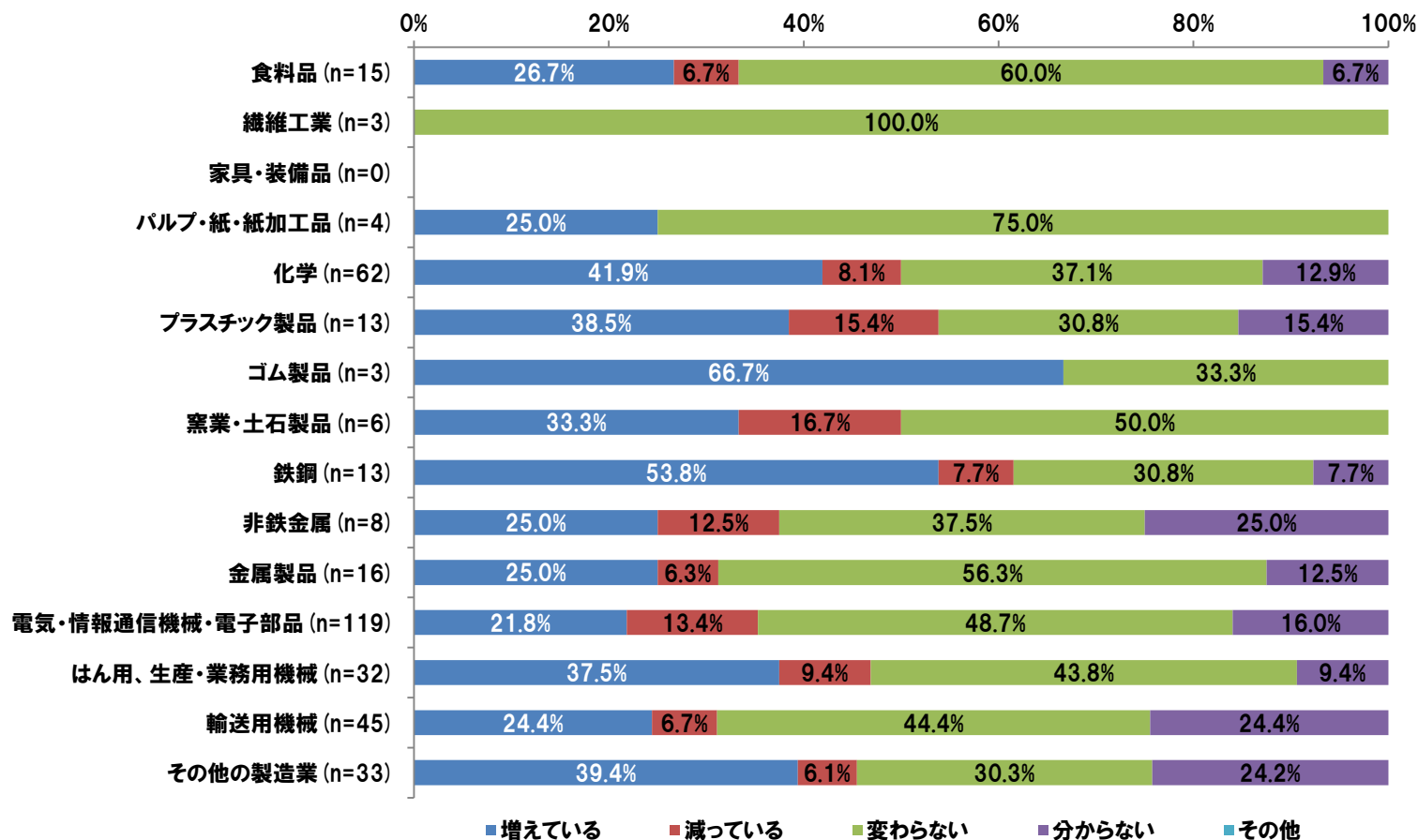
## 4-3 特許要件を満たす発明の秘匿化選択の違い

### (1) 製造業内の業種による違い

特許要件を満たす発明の秘匿化を最も進めているのは素材（化学、鉄鋼等）を製造する企業である。プラスチック/ゴム製品、機械等も、秘匿化している割合がやや大きい。

(SA) 問6. 特許要件を満たすと思われる発明について、あえて秘匿化を選択することは、ここ5年～10年の間に増えていますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種（中分類）についてお教えてください。



発明の秘匿化選択

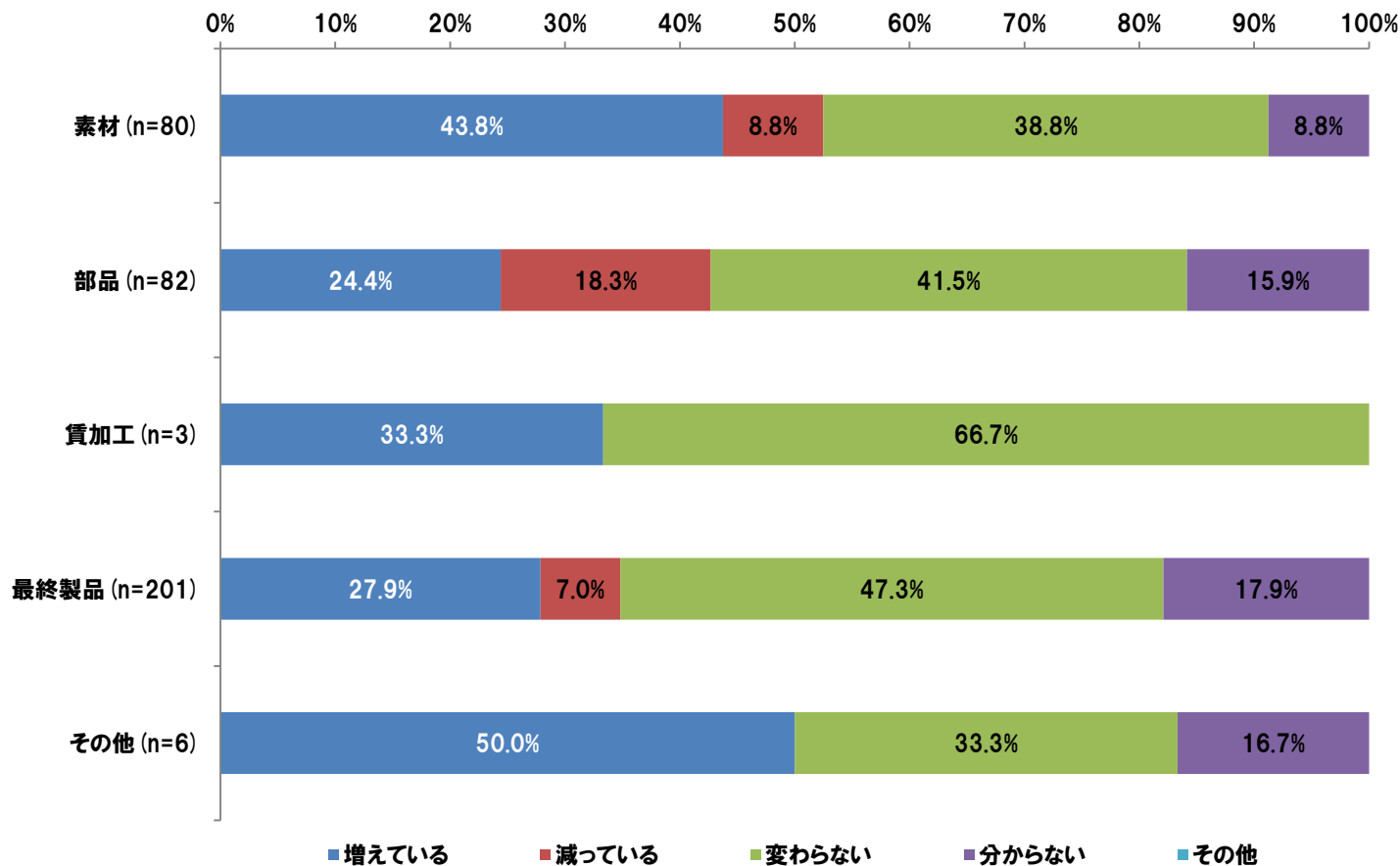
## 4-3 特許要件を満たす発明の秘匿化選択の違い

### (2) 製造業内の主力製品による違い

特許要件を満たす発明の秘匿化を最も進めているのは、素材製造企業である。

(SA) 問6. 特許要件を満たすと思われる発明について、あえて秘匿化を選択することは、ここ5年～10年の間に増えていますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品について教えてください。



発明の秘匿化選択

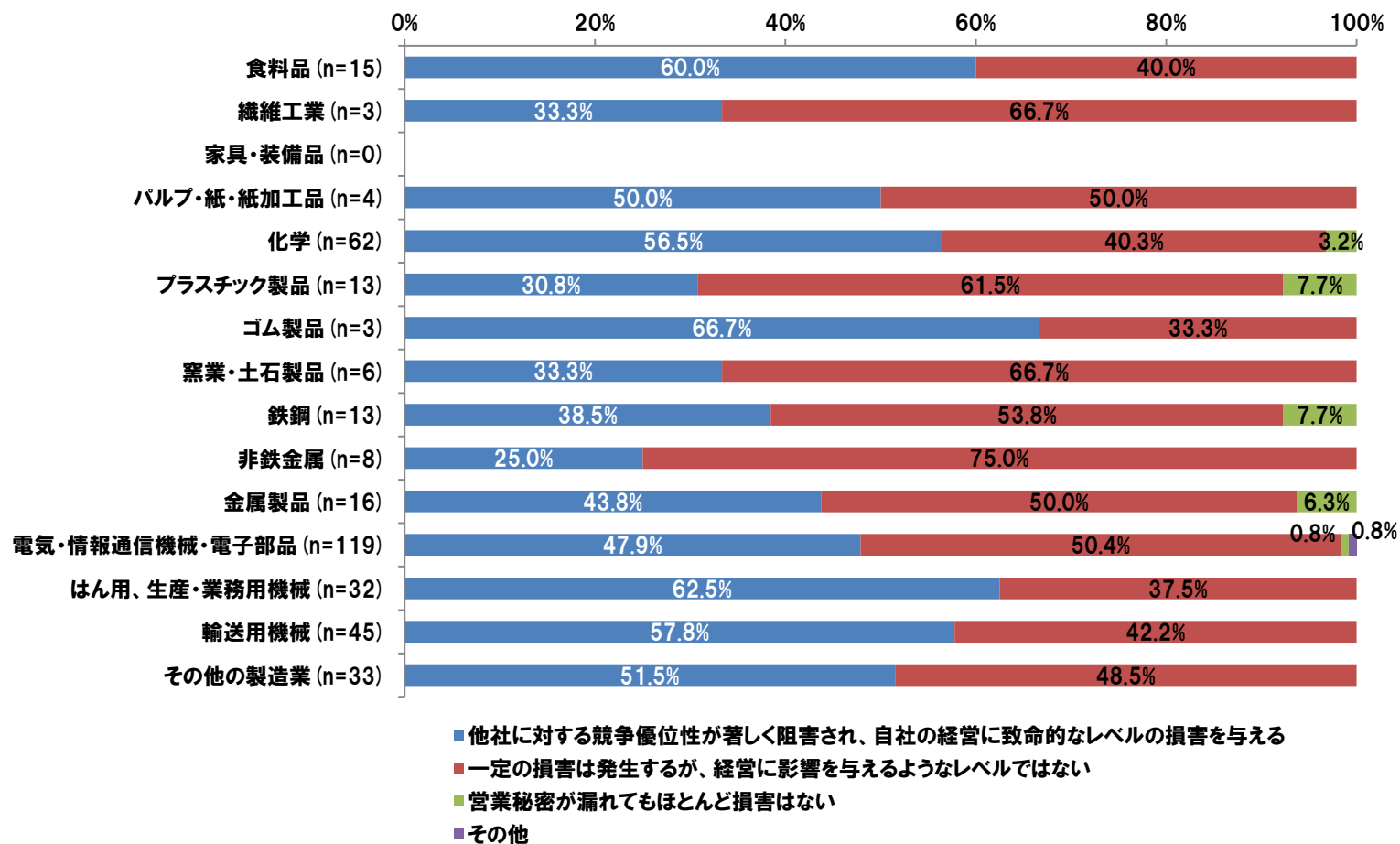
## 4-4 最も重要な技術漏洩による損害の違い

### (1) 製造業内の業種による違い

食品、化学、機械の製造において、最も重要な技術情報の漏えいが経営に致命的な損害を与えるとした企業の割合が多い。

(SA) 問7. 営業秘密とした技術が仮に漏えいした場合には、最も重要な技術の場合でどのような損害が想定されますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。



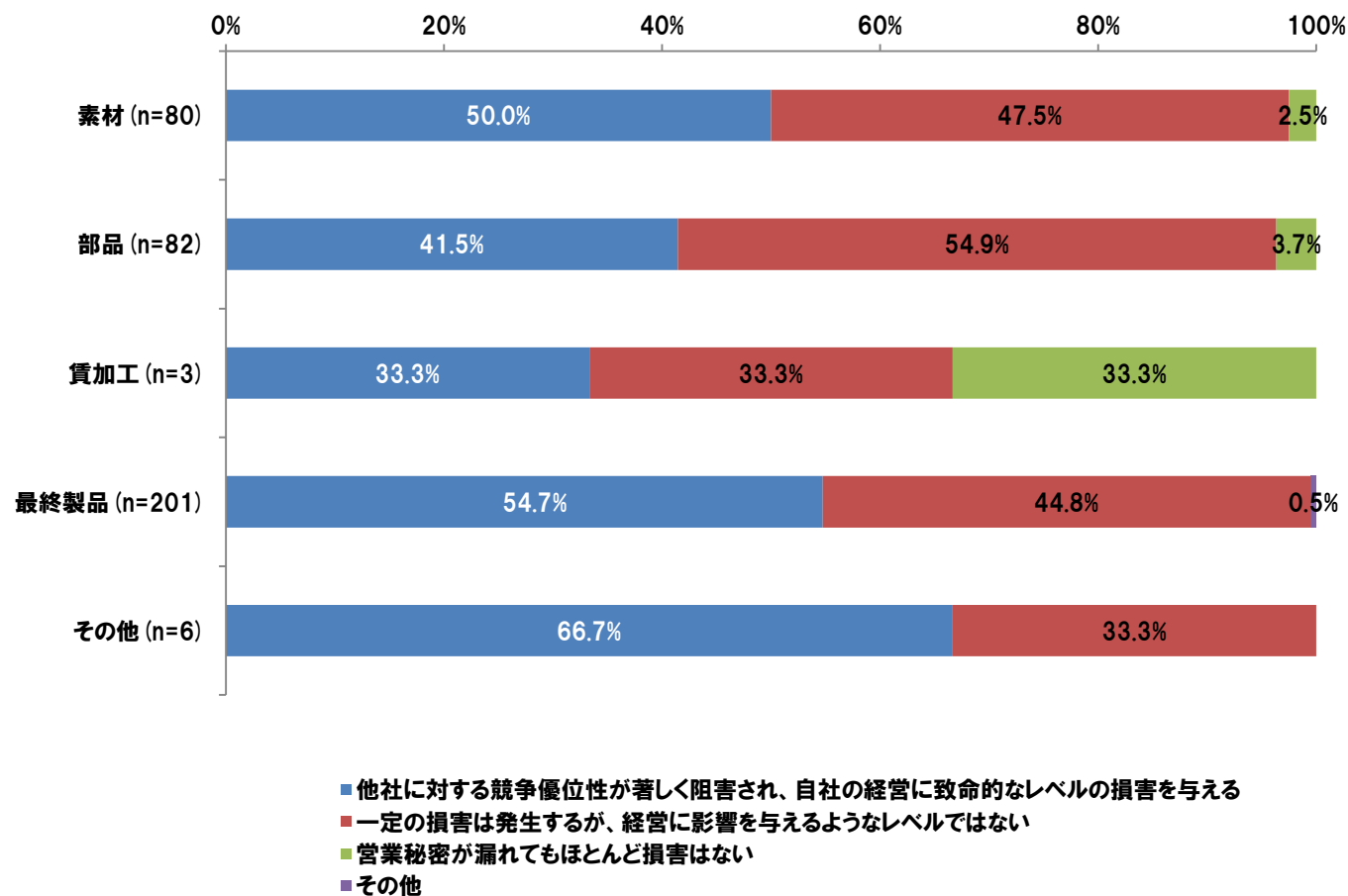
## 4-4 最も重要な技術漏洩による損害の違い

### (2) 製造業内の主力製品による違い

素材と最終製品の製造において、最も重要な技術情報の漏えいが経営に致命的な損害を与えるとした企業の割合が多い。

(SA) 問7. 営業秘密とした技術が仮に漏えいした場合には、最も重要な技術の場合でどのような損害が想定されますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品について教えてください。



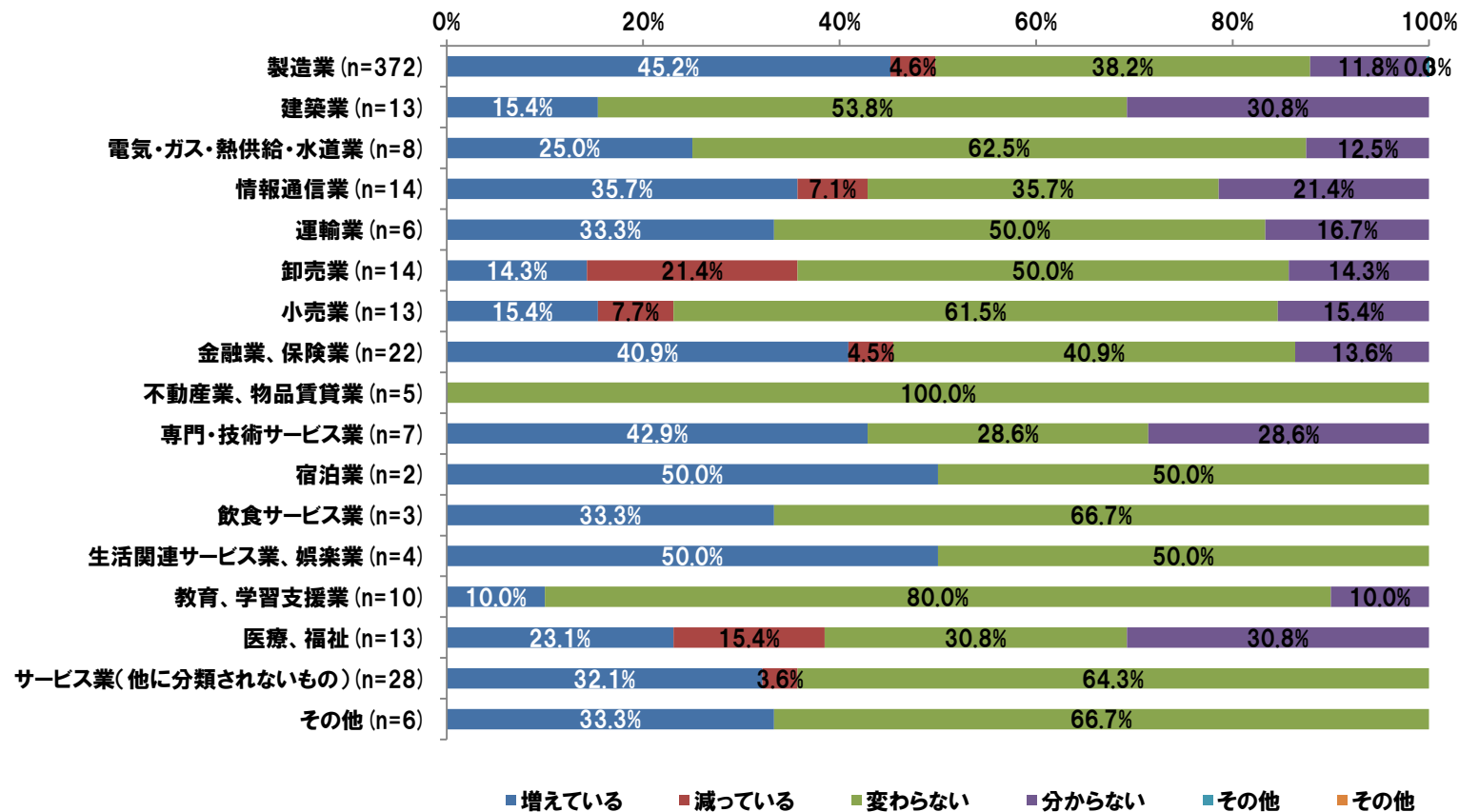
## 4-5 営業秘密の他社との共有等の違い

### (1) 業種による違い

営業秘密を他社と共有する機会が増えているのは、製造業、情報通信、運輸、金融・保険等の業種である。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



他社との営業秘密の共有等

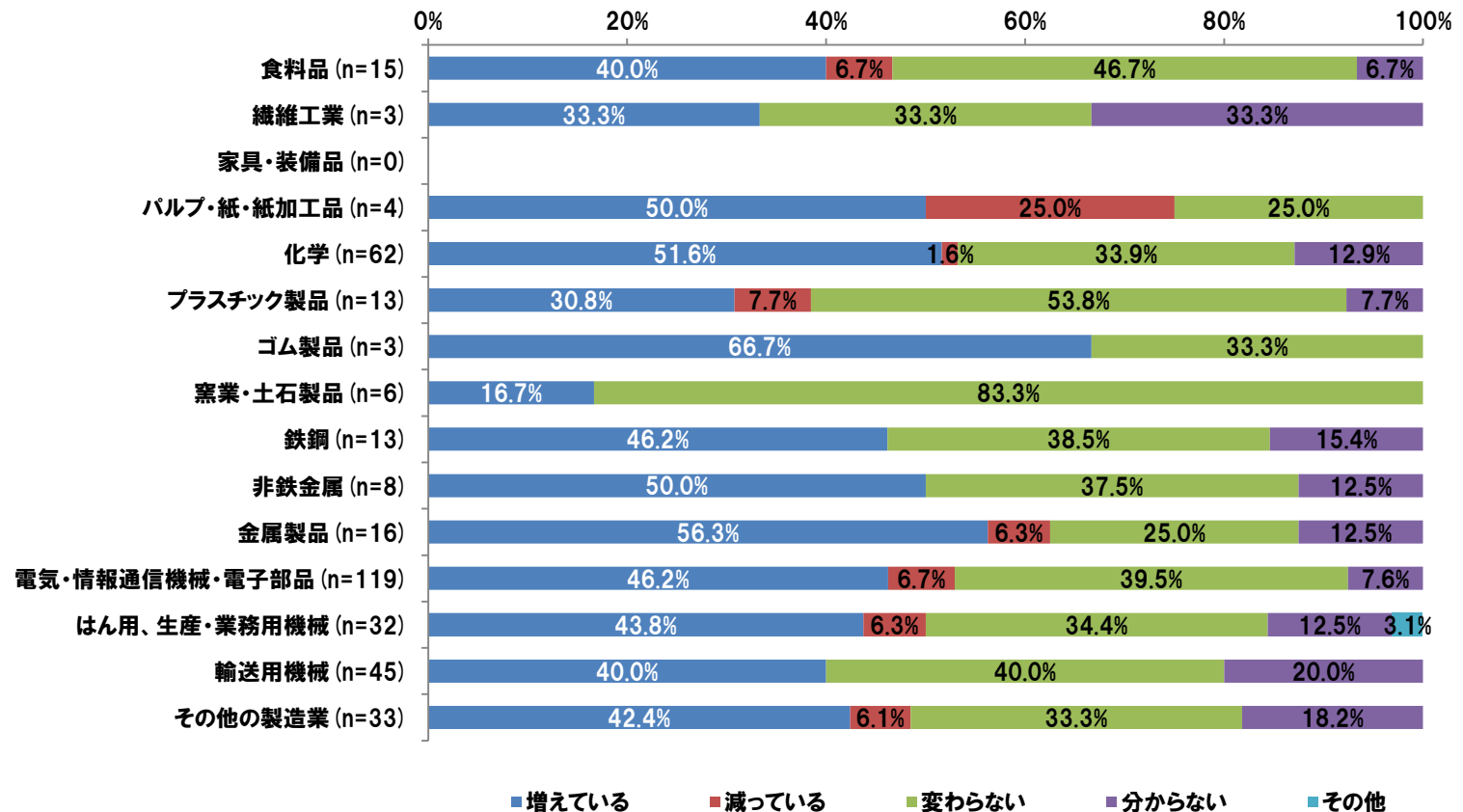
## 4-5 営業秘密の他社との共有等の違い

### (2) 製造業内の業種による違い

製造業では、幅広い業種において、営業秘密を他社と共有する機会が増えている。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。



他社との営業秘密の共有等

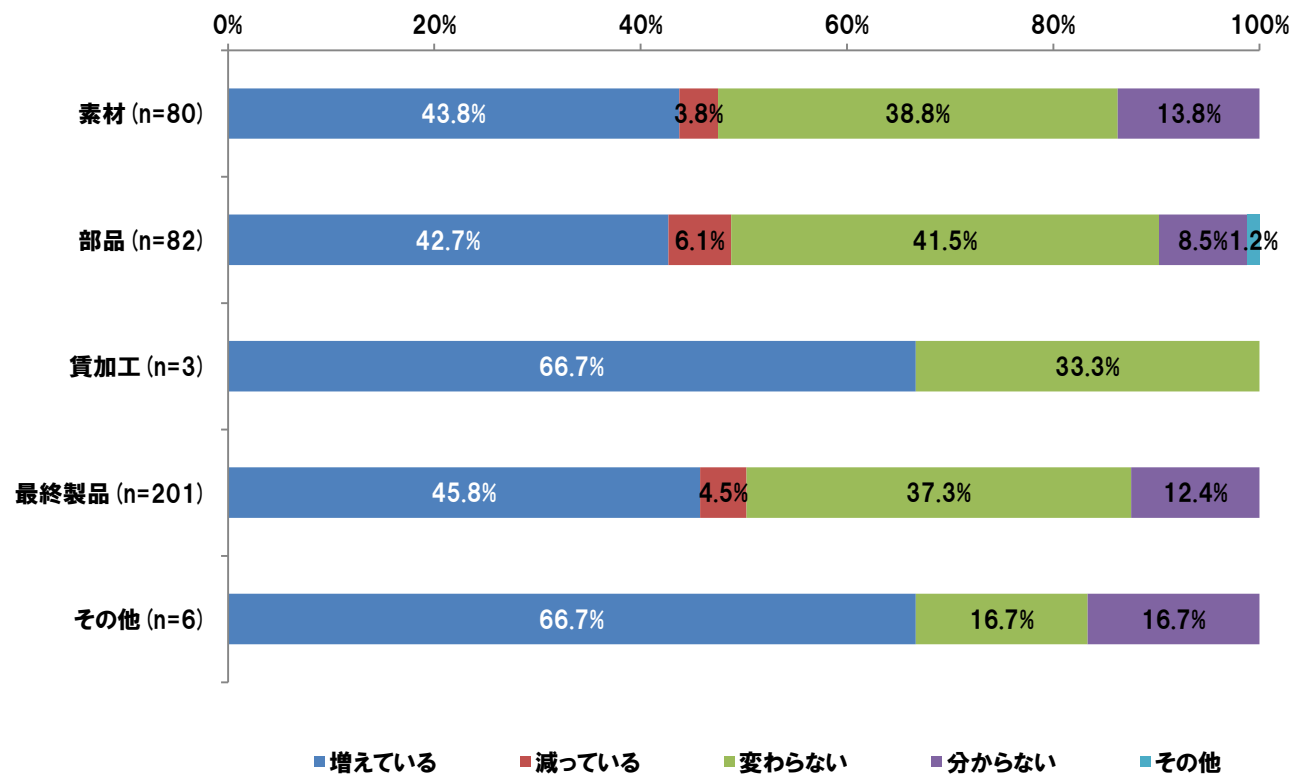
## 4-5 営業秘密の他社との共有等の違い

### (3) 製造業内の主力製品による違い

製造業では、主力製品の種別に関わらず、営業秘密を他社と共有する機会が増えている。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品について教えてください。



他社との営業秘密の共有等



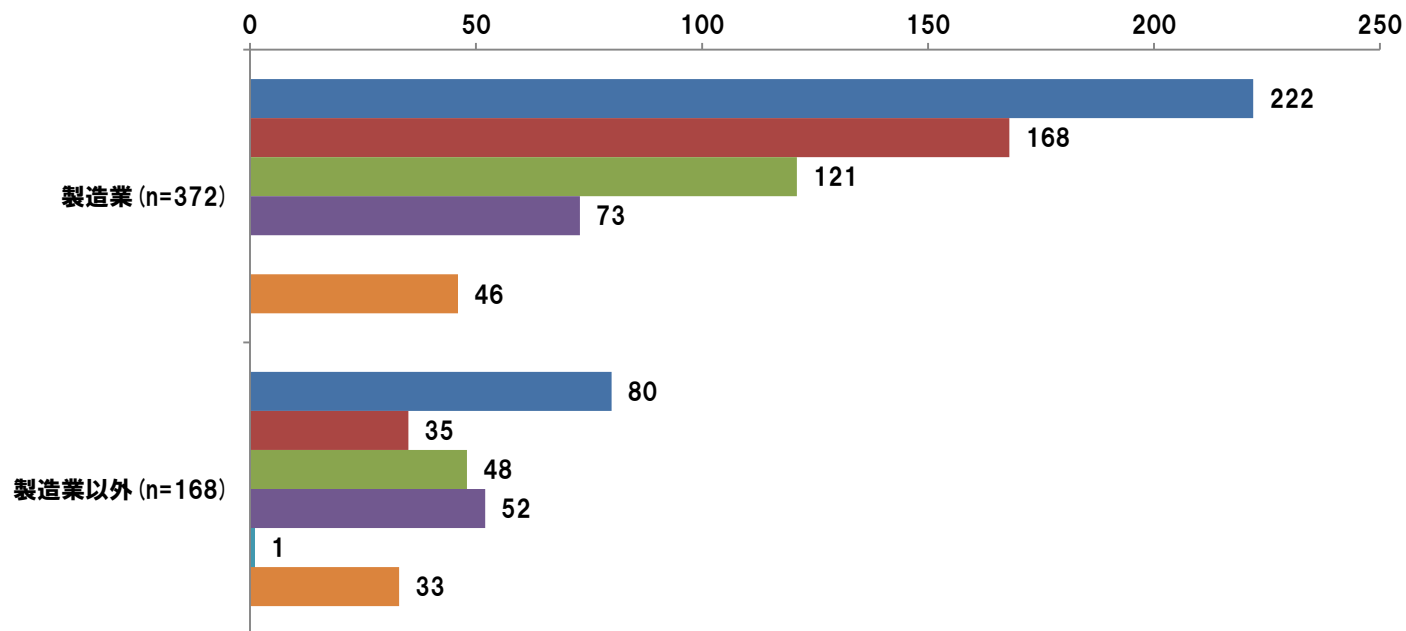
## 4-6 技術・ノウハウの漏えいリスクの高まり意識の違い

### (1) 業種による違い

海外拠点から技術・ノウハウが漏えいするリスクは、製造業において強く認識されている。一方で、サイバー攻撃による漏えいリスクは、非製造業の方が意識が強い。

(MA) 問13. 近年、新興国等の技術力向上もあり、我が国の先端技術が盗取等されるリスクが指摘されています。貴社では技術・ノウハウの漏えいリスクは高まっていると感じられますか。それはどこから感じますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



- 人材の流動性が高まるとともに、ITの高度化により情報の持ち出しが物理的に容易になったことも相まって、内部不正によるものを含め人材を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクが高まっていると感じる
- 海外進出時に現地の自社工場等から漏えいするリスクが高まっていると感じる
- 取引先に開示した情報が他社に漏えいするなど、取引先を通じた漏えいリスクが高まっていると感じる
- 標的型攻撃など、サイバー犯罪による漏えいリスクが高まっていると感じる
- その他
- 具体的なリスクは認識していない

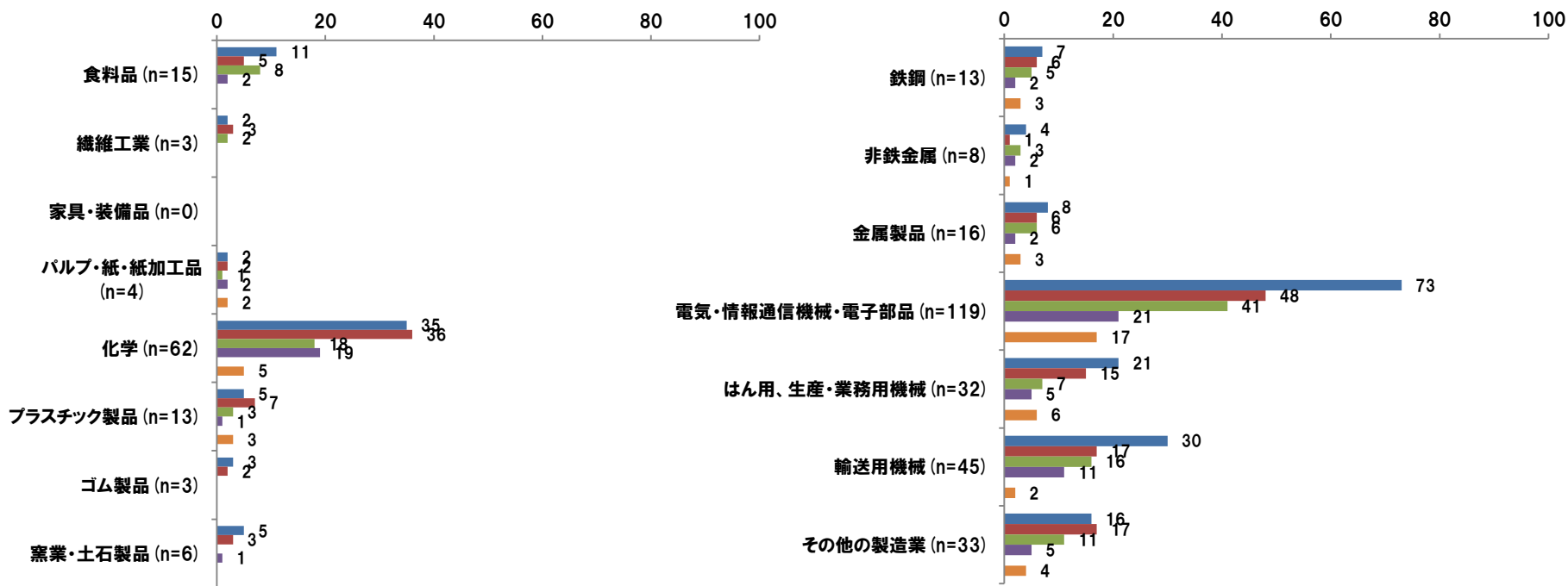
## 4-6 技術・ノウハウの漏えいリスクの高まり意識の違い

### (2) 製造業内の業種による違い

製造業では、人材を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクへの高い意識で共通している。一方で、素材製造企業（化学・鉄鋼等）は、他の分野より、海外拠点からの漏えいリスクへの意識が強い傾向がある。

(MA) 問13. 近年、新興国等の技術力向上もあり、我が国の先端技術が盗取等されるリスクが指摘されています。貴社では技術・ノウハウの漏えいリスクは高まっていると感じられますか。それはどこから感じますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種（中分類）についてお教えてください。



- 人材の流動性が高まるとともに、ITの高度化により情報の持ち出しが物理的に容易になったことも相まって、内部不正によるものを含め人材を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクが高まっていると感じる
- 海外進出時に現地の自社工場等から漏えいするリスクが高まっていると感じる
- 取引先に開示した情報が他社に漏えいするなど、取引先を通じた漏えいリスクが高まっていると感じる
- 標的型攻撃など、サイバー犯罪による漏えいリスクが高まっていると感じる
- その他
- 具体的なリスクは認識していない

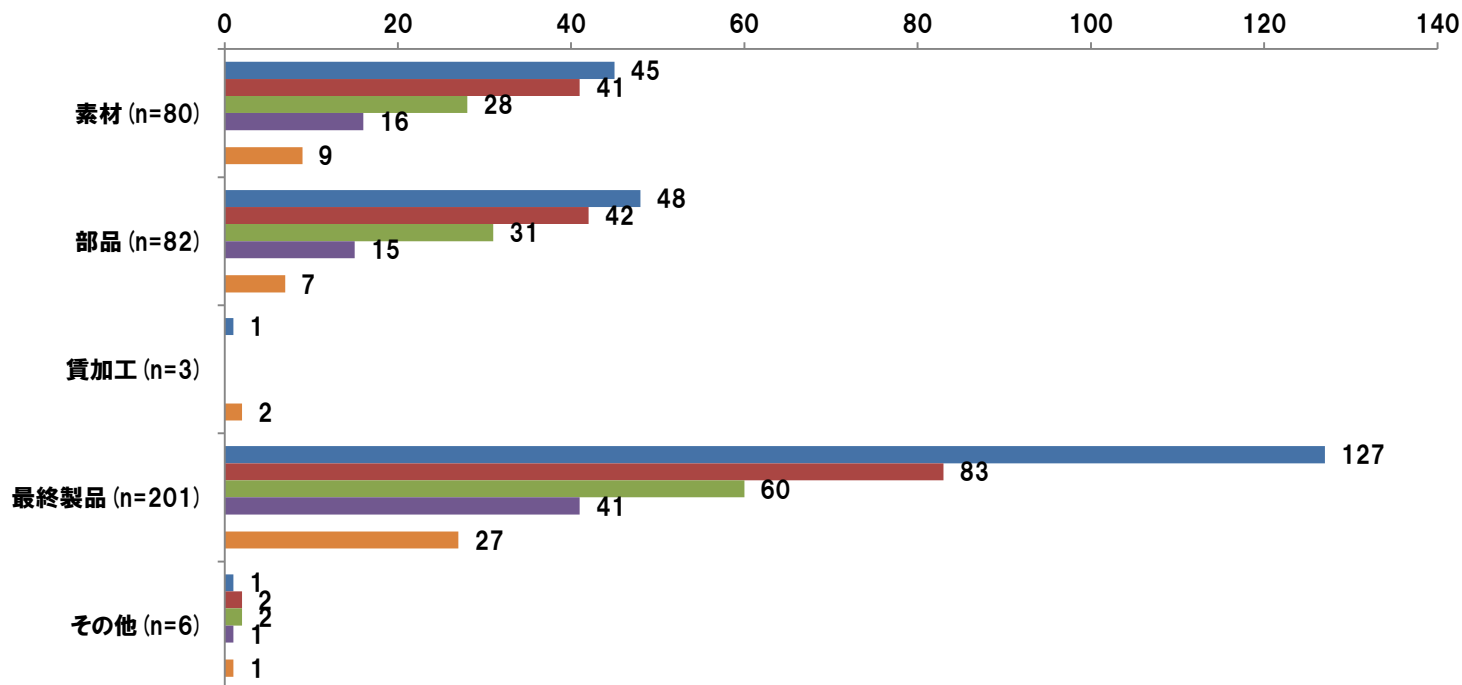
## 4-6 技術・ノウハウの漏えいリスクの高まり意識の違い

### (3) 製造業内の主力製品による違い

技術・ノウハウの漏えいリスクの高まりは、主力製品によってあまり影響を受けていない。但し、最終製品の製造企業は、海外拠点からの流出に対する意識が、他と比較して若干低めになっている。

(MA) 問13. 近年、新興国等の技術力向上もあり、我が国の先端技術が盗取等されるリスクが指摘されています。貴社では技術・ノウハウの漏えいリスクは高まっていると感じられますか。それはどこから感じますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品についてお教えてください。



- 人材の流動性が高まるとともに、ITの高度化により情報の持ち出しが物理的に容易になったことも相まって、内部不正によるものを含め人材を通じた技術・ノウハウの漏えいリスクが高まっていると感じる
- 海外進出時に現地の自社工場等から漏えいするリスクが高まっていると感じる
- 取引先に開示した情報が他社に漏えいするなど、取引先を通じた漏えいリスクが高まっていると感じる
- 標的型攻撃など、サイバー犯罪による漏えいリスクが高まっていると感じる
- その他
- 具体的なリスクは認識していない

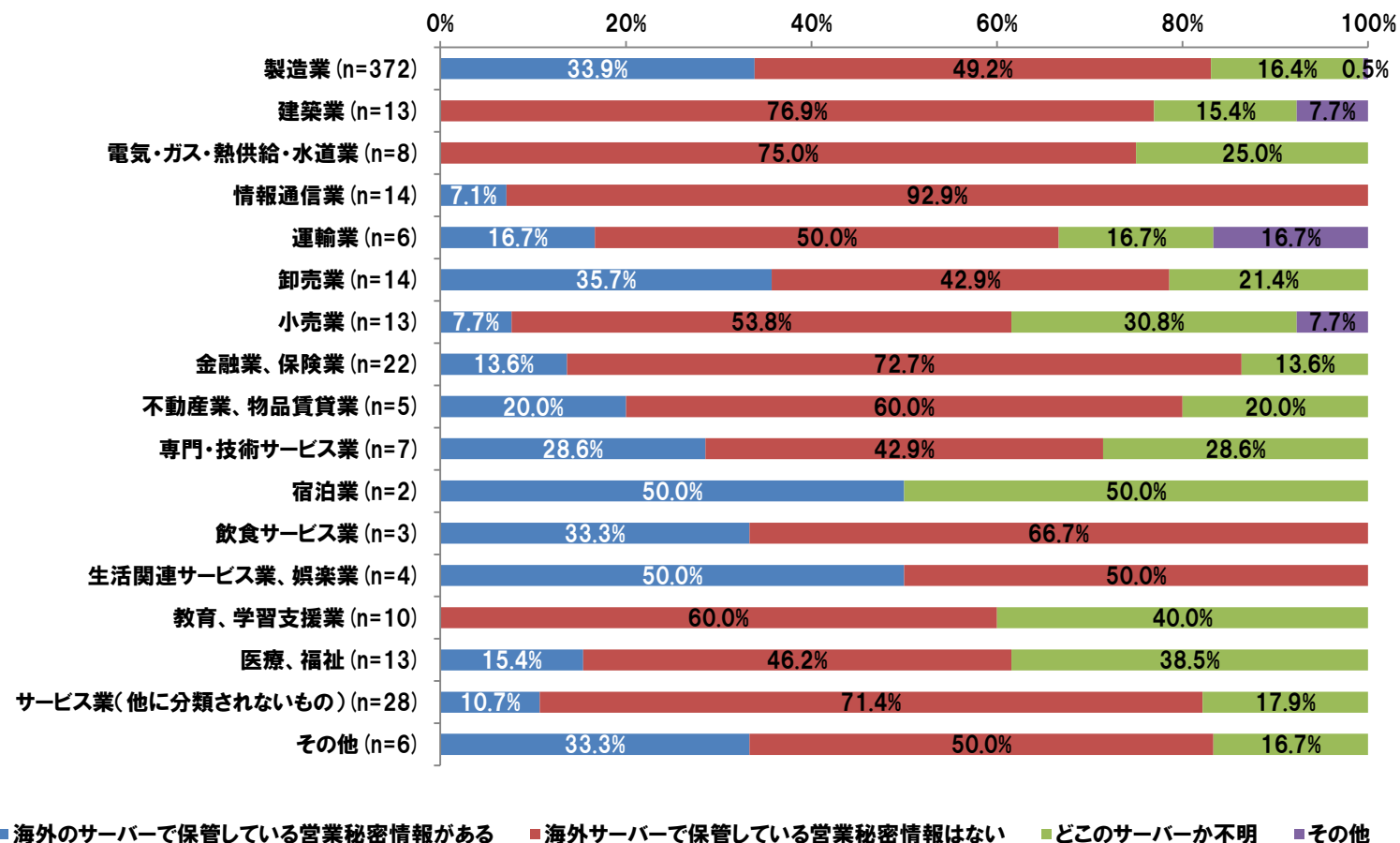
## 4-7 営業秘密の海外サーバーへの保管の違い

### (1) 業種による違い

営業秘密情報を海外のサーバーで保管している業種はかなり限定されるが、製造業は約1/3の企業がこれを行っており、卸売業と並んで高い割合を示している。

(SA) 問18. 電子データとなっている営業秘密情報について、現行法上は、海外のサーバーで保管されている場合に、当該サーバーから盗み出す行為は処罰対象となるか否かが不明確であるとの指摘がありますが、御社では海外サーバーに保管するものがありますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



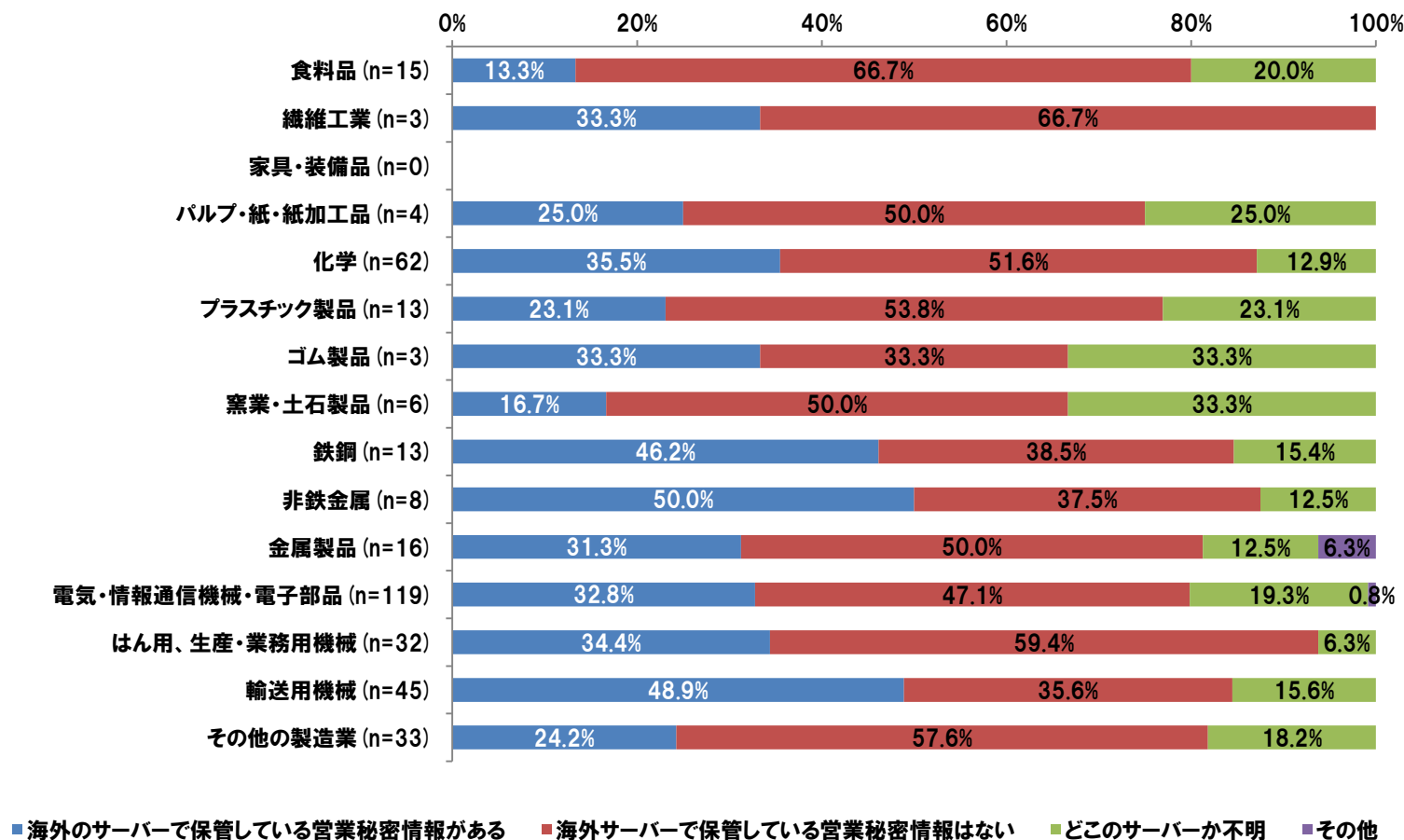
## 4-7 営業秘密の海外サーバーへの保管の違い

### (2) 製造業内の業種による違い

製造業の中では、化学、鉄鋼、金属、電気・電子、機械等の分野で、営業秘密を海外サーバーに保管する割合が高くなっている。

(SA) 問18. 電子データとなっている営業秘密情報について、現行法上は、海外のサーバーで保管されている場合に、当該サーバーから盗み出す行為は処罰対象となるか否かが不明確であるとの指摘がありますが、御社では海外サーバーに保管するものがありますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。



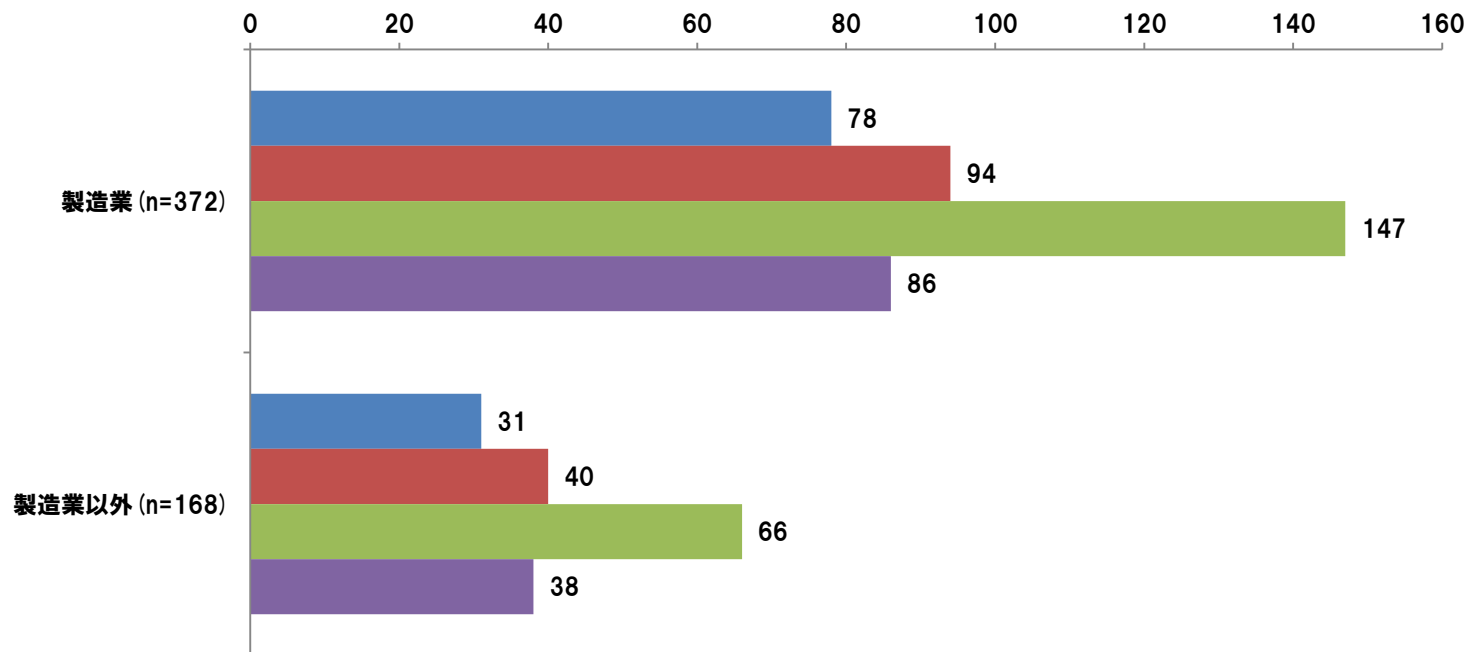
## 4-8 営業秘密窃取(疑い含む)被害の違い

### (1) 業種による違い

営業秘密の窃取または疑い事例の発生については、製造業と非製造業の間で、内部犯行、外部犯行を問わず、顕著な差はない。

(MA) 問19. 実際に営業秘密を窃取されたか、又は、定かではないものの、窃取されたのではないかと疑われる事例がありますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



- 外部からの具体的な危険性があったと感じた例がある
- 内部において具体的な危険性があったと感じた例がある
- 可能性はあるが、具体的な危険は感じたことがない
- 分からない

### 営業秘密窃取の疑い例

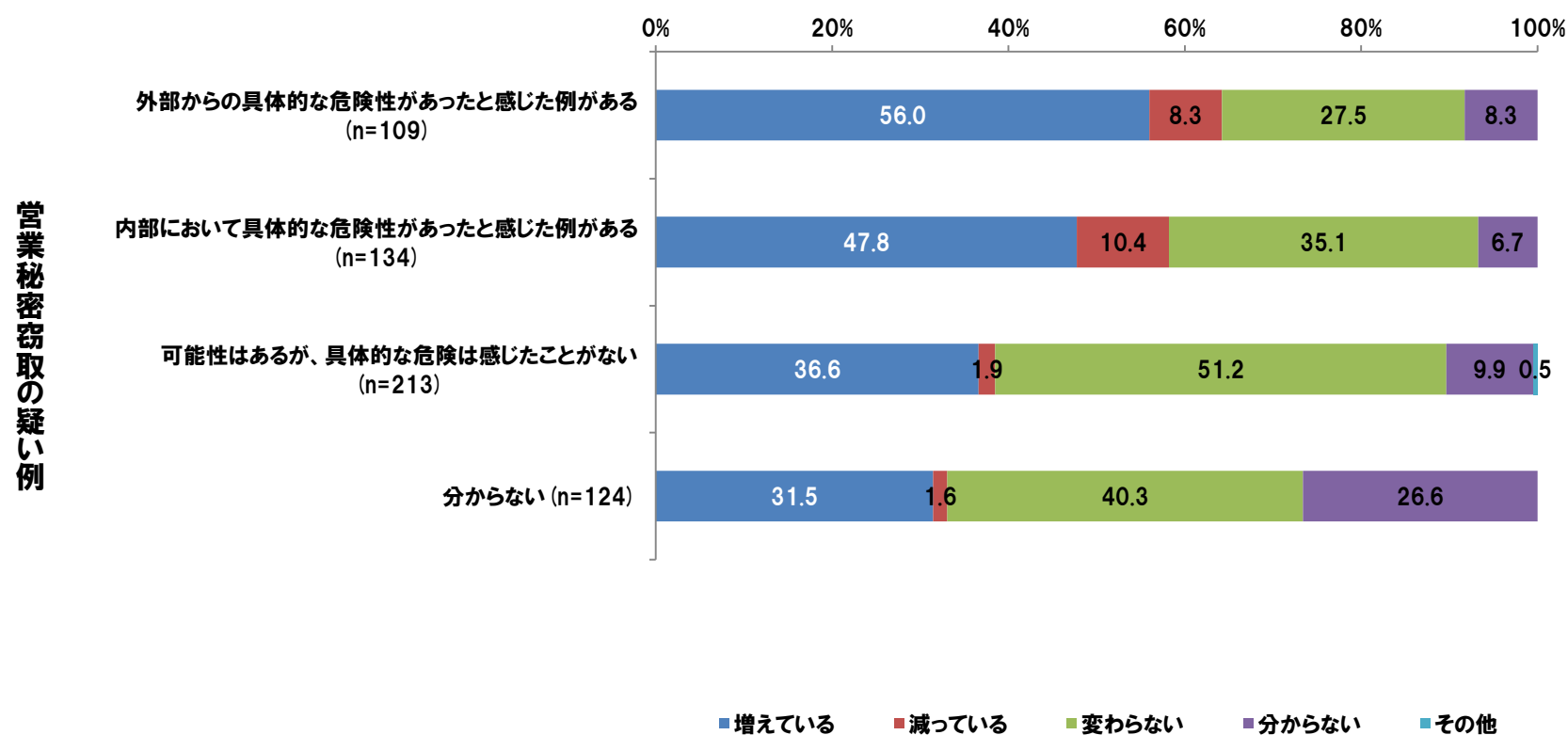
## 4-8 営業秘密窃取(疑い含む)被害の違い

### (2) 営業秘密を他社と共有していることによる違い

他社との間での営業秘密共有が増えている企業は、営業秘密の窃取または疑い事例の発生に直面しやすい。

(MA) 問19. 実際に営業秘密を窃取されたか、又は、定かではないものの、窃取されたのではないかと疑われる事例がありますか。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。



他社との営業秘密の共有等

## 4-8 営業秘密窃取(疑い含む)被害の違い

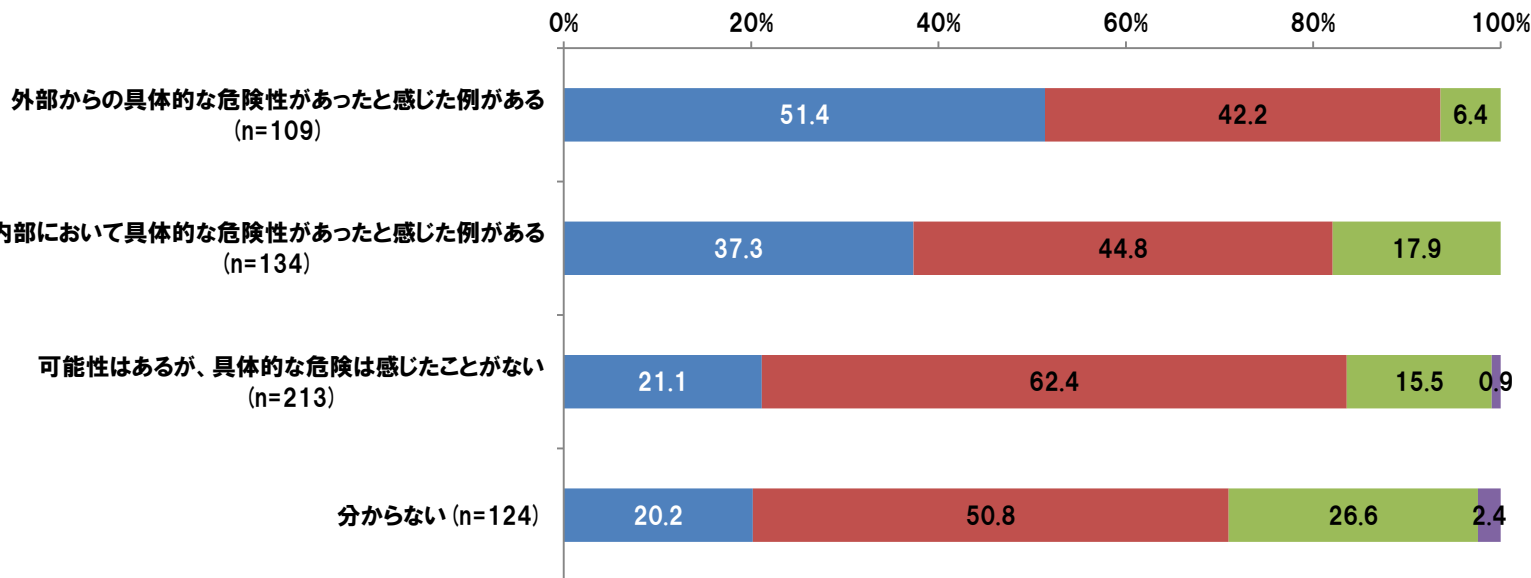
### (3) 営業秘密を海外サーバーに保管していることによる違い

海外のサーバーで保管している営業秘密情報がある企業は、営業秘密の窃取または疑い事例の発生に直面しやすい。

(MA) 問19. 実際に営業秘密を窃取されたか、又は、定かではないものの、窃取されたのではないかと疑われる事例がありますか。

(SA) 問18. 電子データとなっている営業秘密情報について、現行法上は、海外のサーバーで保管されている場合に、当該サーバーから盗み出す行為は処罰対象となるか否かが不明確であるとの指摘がありますが、御社では海外サーバーに保管するものがありますか。

営業秘密窃取の疑い例



- 海外のサーバーで保管している営業秘密情報がある
- 海外サーバーで保管している営業秘密情報はない
- どこのサーバーか不明(外部業者が提供するクラウドサービス利用の場合など)なサーバーで保管している営業秘密情報がある
- その他



## 4-9 非親告罪化の要望の強さ

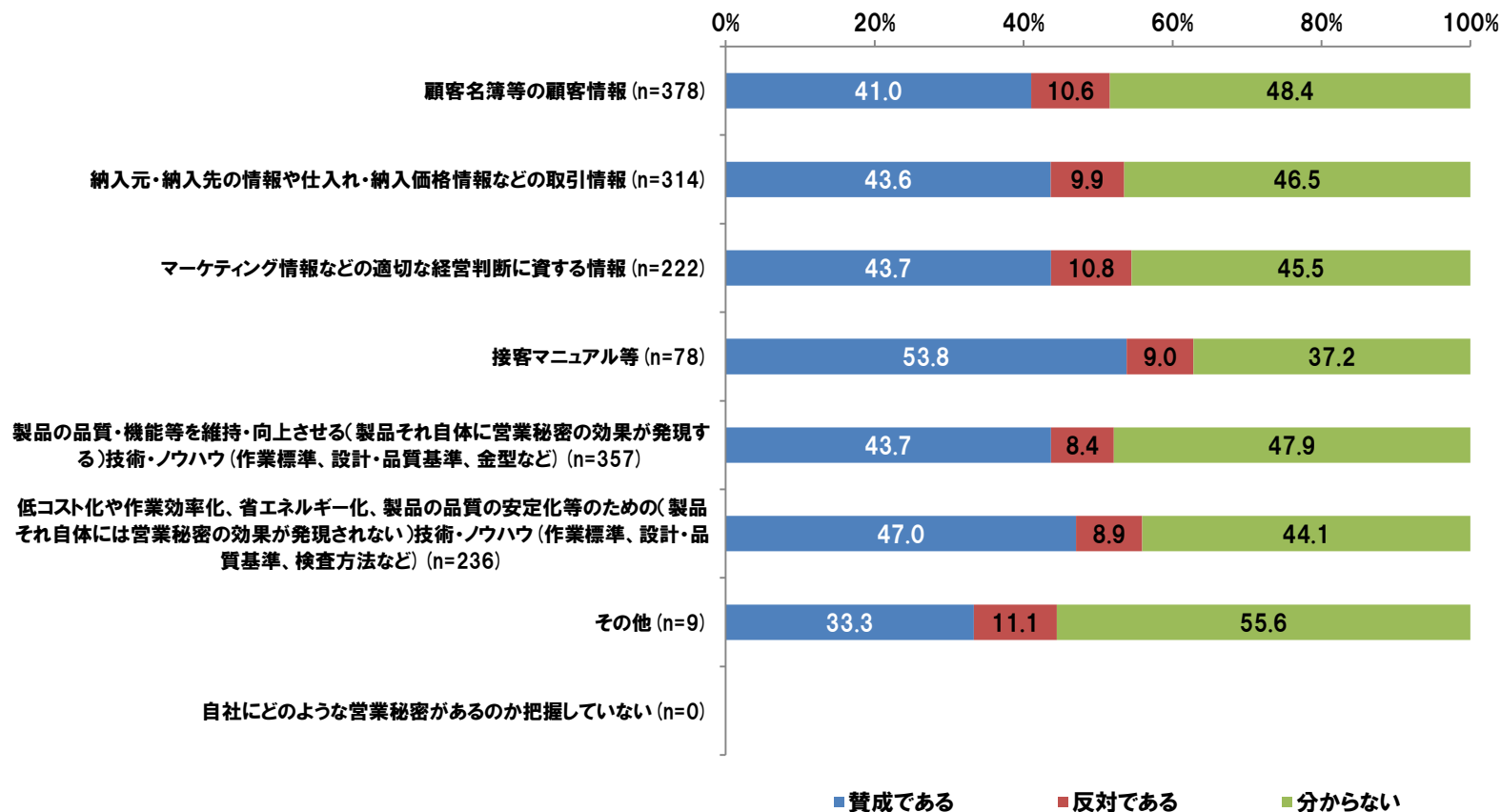
### (1) どのような営業秘密種別に対し非親告罪化の要望が強いのか

非親告罪化の要望の強さは、営業秘密として管理している情報にはあまり依存しない。

(MA) 問3. どのような情報を現在、営業秘密として管理していますか。

(SA) 問15. 非親告罪にすることについてどう考えますか。

営業秘密として管理している情報



非親告罪化の要望

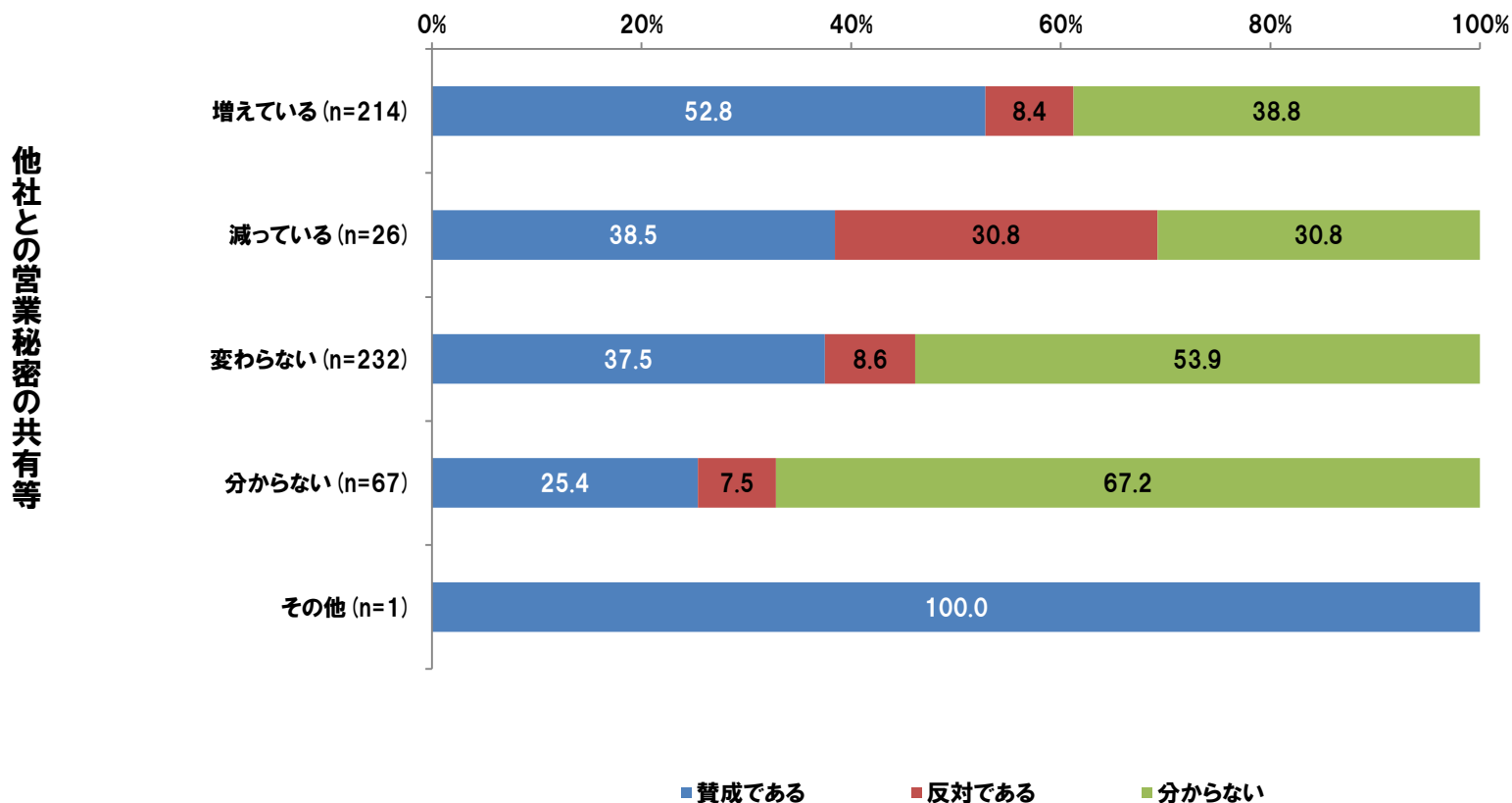
## 4-9 非親告罪化の要望の強さ

### (2) 営業秘密の他社との共有等と非親告罪化の要望の強さの関係

他社との営業秘密の共有が増えている企業は、非親告罪化を希望する傾向が強い。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

(SA) 問15. 非親告罪にすることについてどう考えますか。



非親告罪化の要望

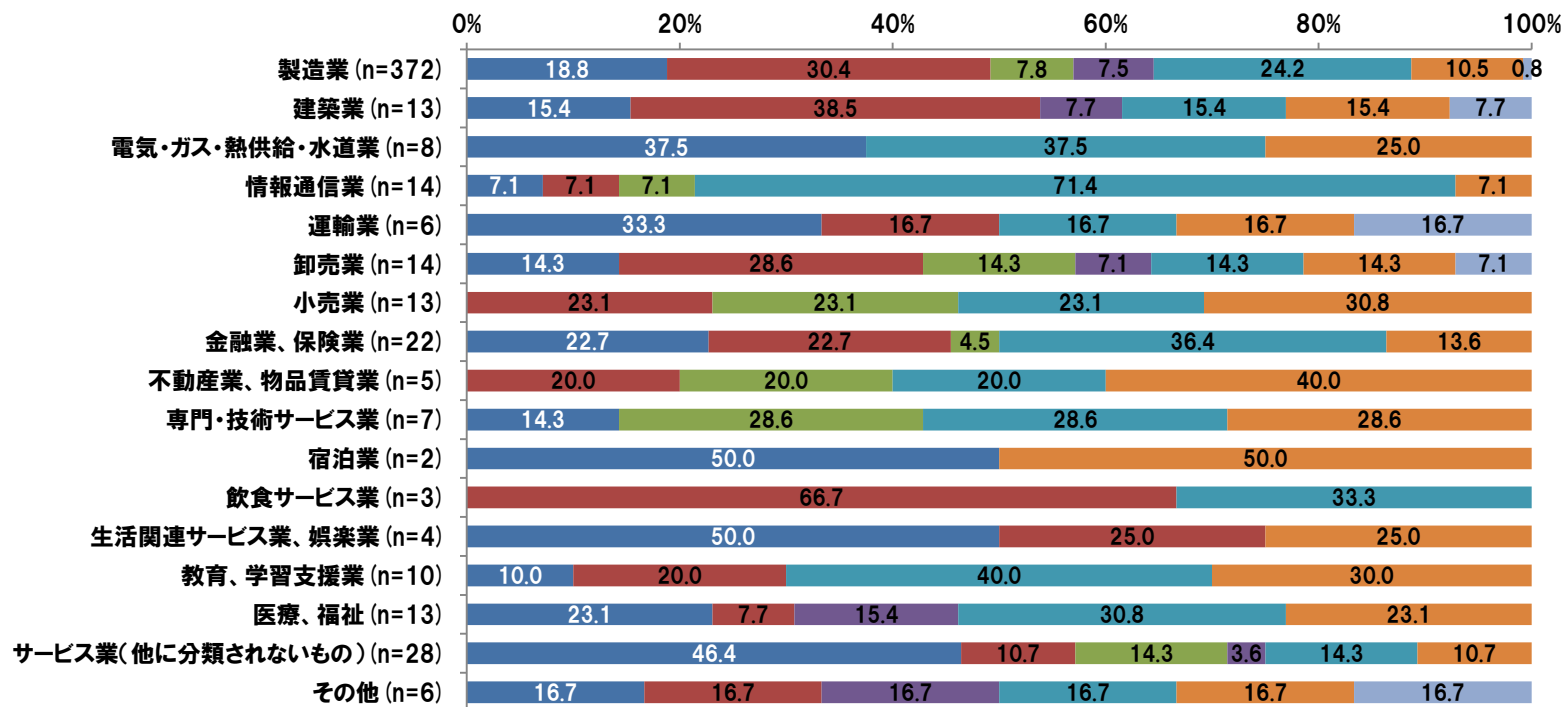
## 4-10 流通を規制する措置への要望の強さ

### (1) 製造業内の業種別の違い

業種によって内訳は様々であるが、総じて流通を規制する措置が必要だと感じている企業が大勢を占めている。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。

(SA) 問16. 国内外で、自社の営業秘密を使用して生産された物品の流通が疑われる事例はありますか。流通を規制する措置が必要だと思いますか。



- 実際に国内で流通が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる
- 実際に輸出入が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる
- 実際に国内で流通が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- 実際に輸出入が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- 実際に流通が疑われる事例はないが、流通を規制する措置は必要だと感じる
- 実際に流通が疑われる事例はなく、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- その他

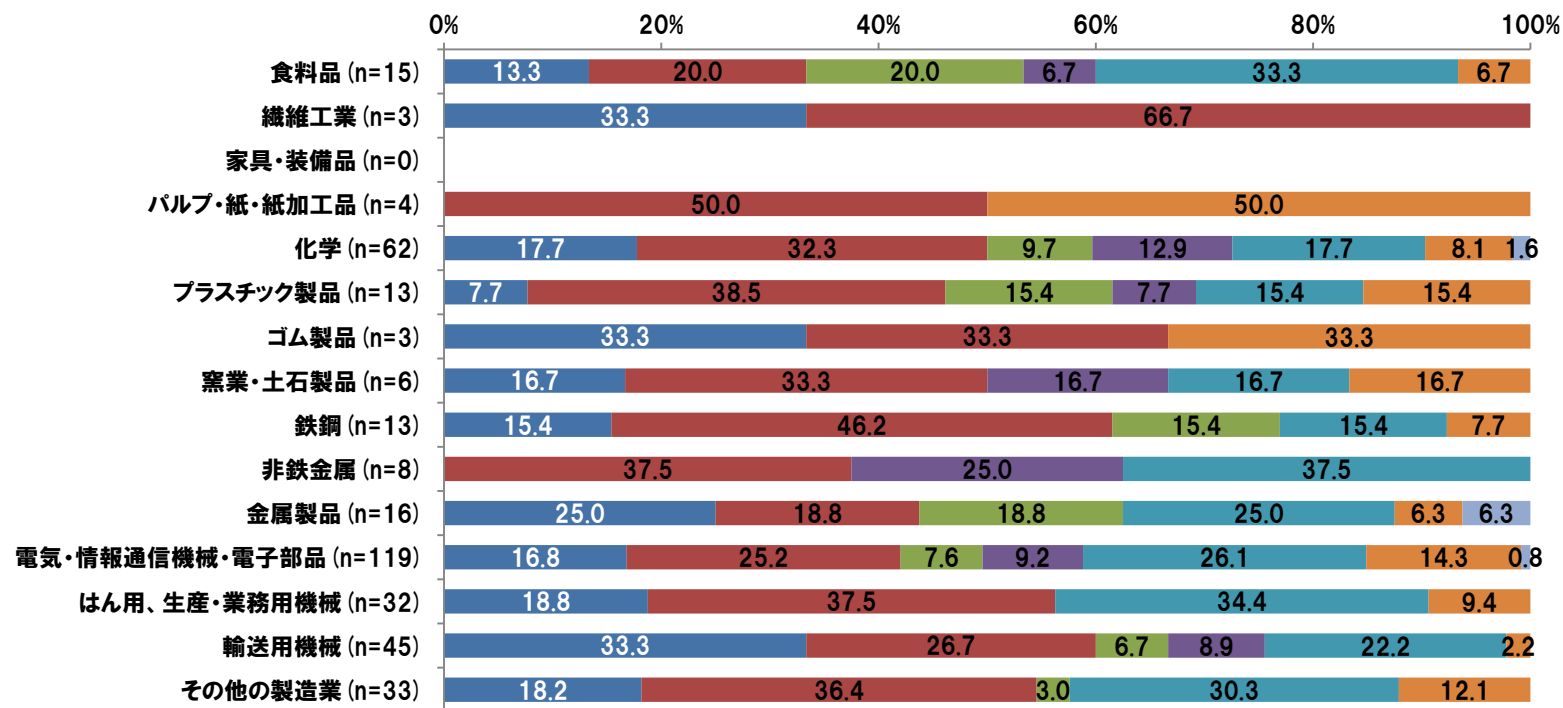
## 4-10 流通を規制する措置への要望の強さ

### (2) 主力商品別の違い

製造業では、国内流通より輸出入において疑い事例が多く、流通規制の必要性を強く感じている。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。

(SA) 問16. 国内外で、自社の営業秘密を使用して生産された物品の流通が疑われる事例はありますか。流通を規制する措置が必要だと思いますか。



- 実際に国内で流通が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる
- 実際に輸出入が疑われる事例があり、流通を規制する措置が必要だと感じる
- 実際に国内で流通が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- 実際に輸出入が疑われる事例があるが、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- 実際に流通が疑われる事例はないが、流通を規制する措置は必要だと感じる
- 実際に流通が疑われる事例はなく、流通を規制する措置の必要性は感じられない
- その他

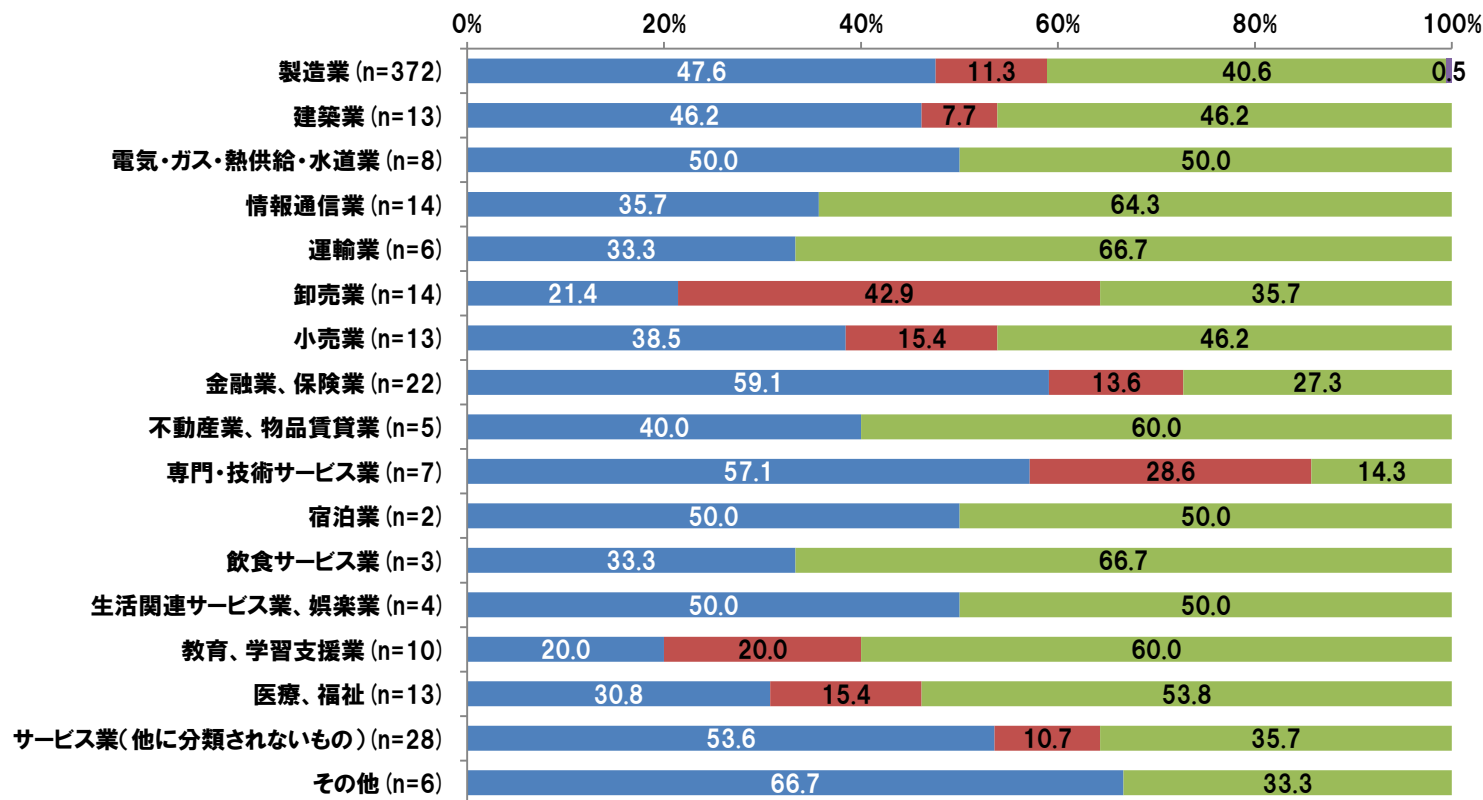
## 4-11 推定規定への要望の強さ

### (1) 製造業内の業種別の違い

推定規定導入への要望は、非製造業よりも製造業の方がやや強い傾向にある。しかし、非製造業でも金融・保険のように、要望の強さが突出している業種がある。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。



■ 推定規定の導入について賛成である ■ 推定規定の導入について反対である ■ 分からない ■ その他

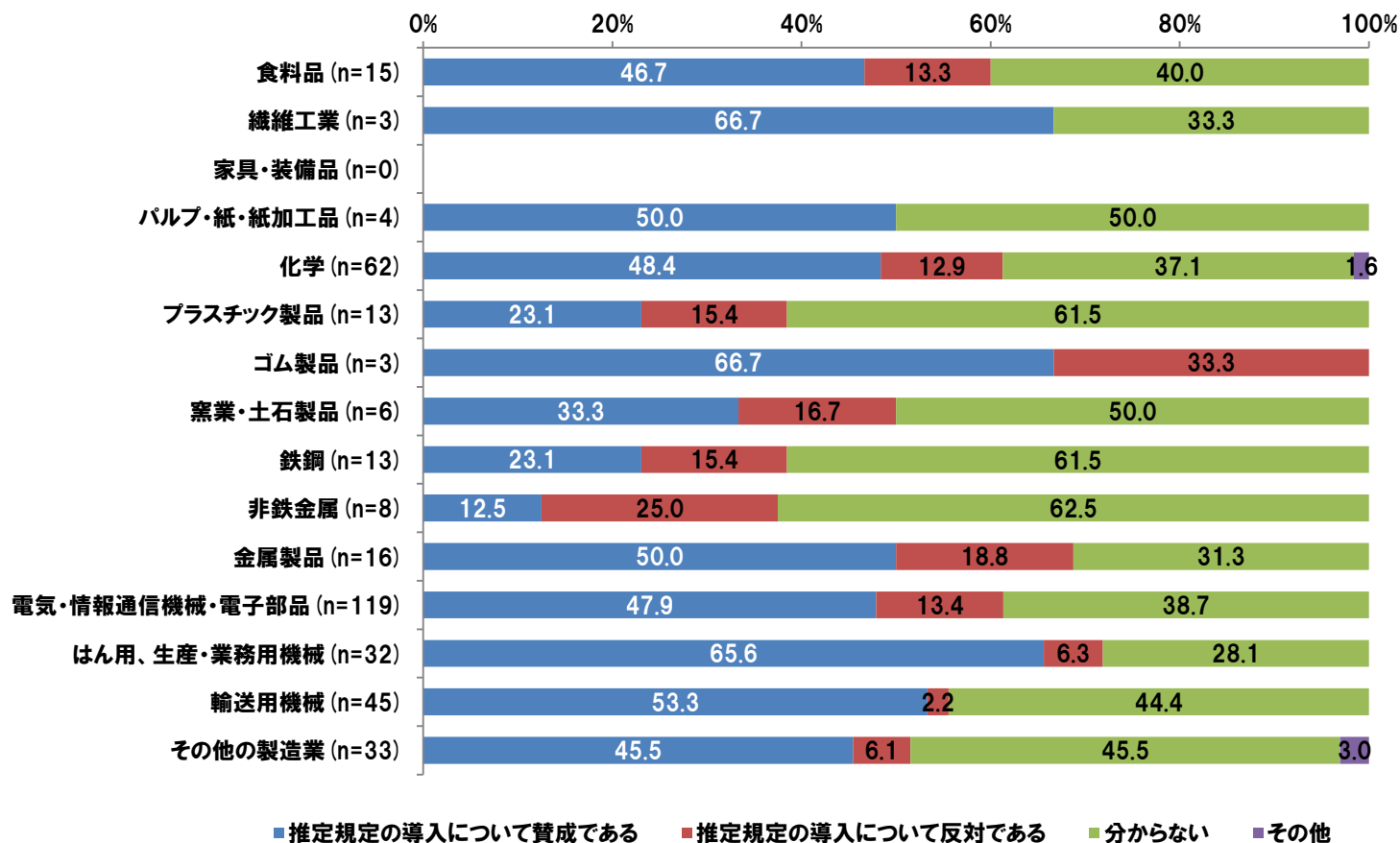
## 4-11 推定規定への要望の強さ

### (2) 主力商品別の違い

製造業の中では、推定規定の導入に肯定的な業種が多いが、一方で、鉄鋼等のように1/4に達しない業種も存在している。

(SA) F2. 貴社の主要業種 (中分類) についてお教えてください。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。



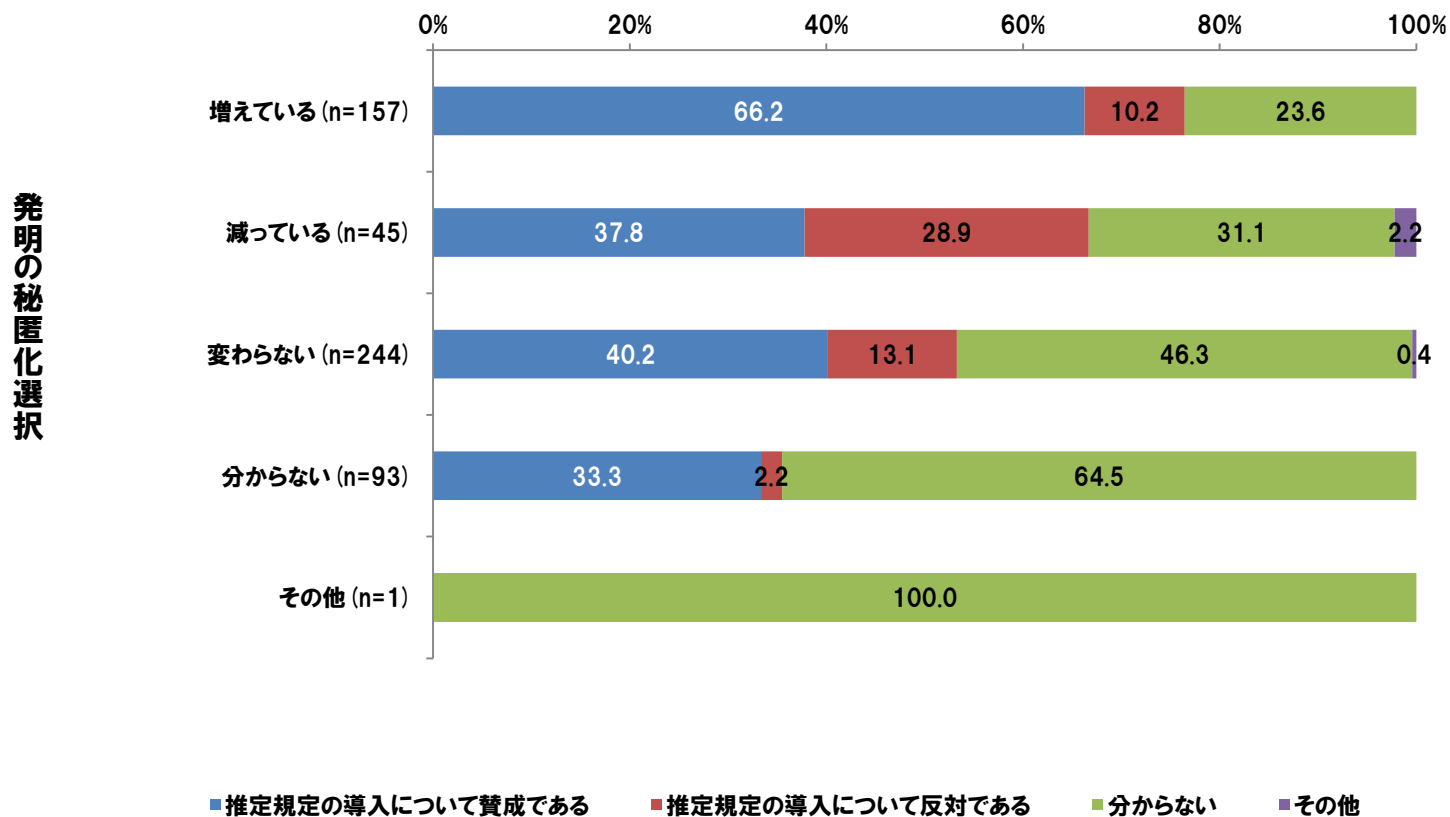
## 4-11 推定規定への要望の強さ

### (3) クローズ戦略との関係

クローズ戦略に重点を置く方向の企業では、推定規定の導入を求める割合が大きい。

(SA) 問6. 特許要件を満たすと思われる発明について、あえて秘匿化を選択することは、ここ5年～10年の間に増えていますか。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。



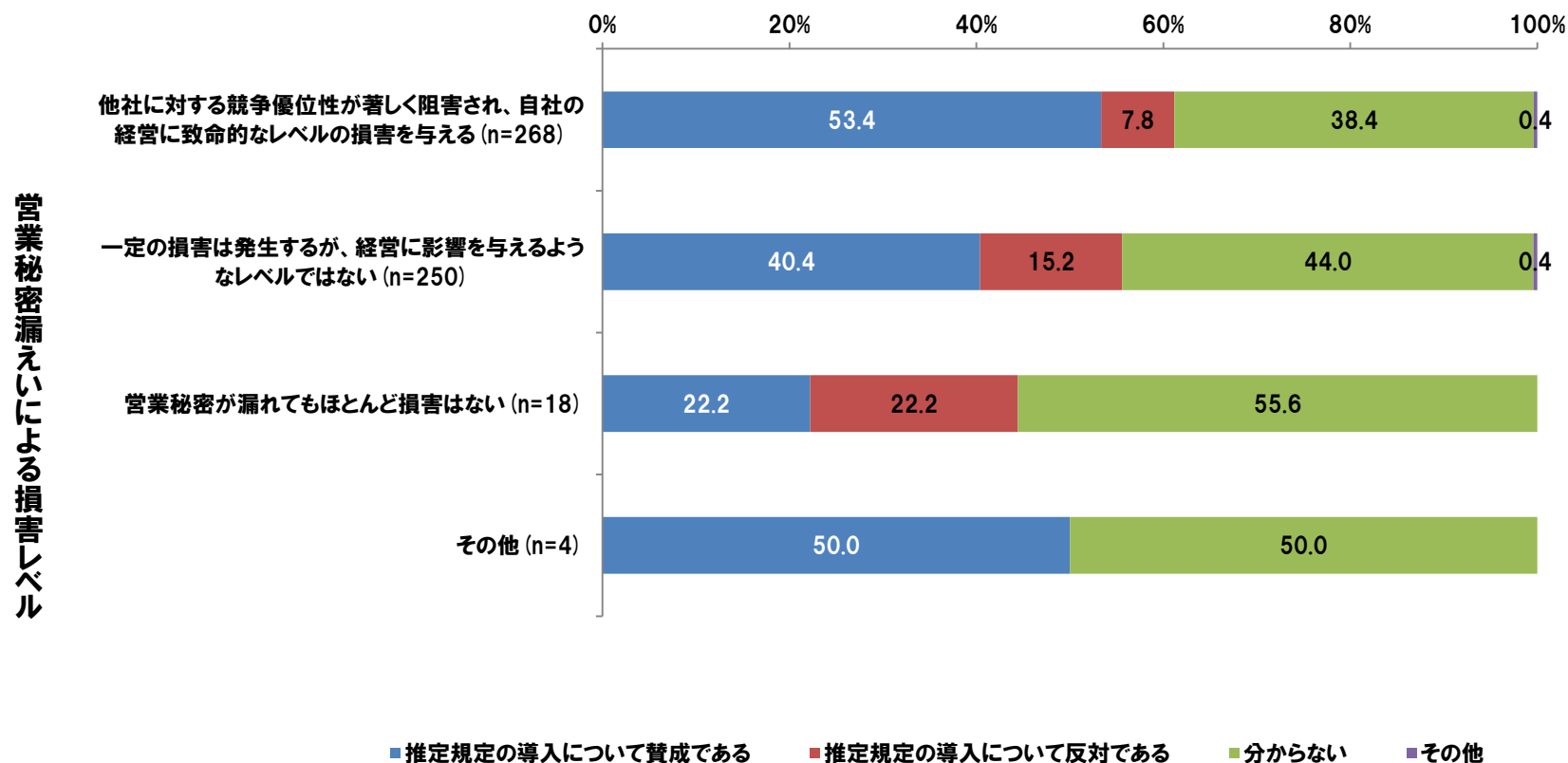
## 4-11 推定規定への要望の強さ

### (4) 損害の大きさとの関係

最も重要な技術情報の漏えいが自社の経営に致命的な損害を与える企業では、推定規定の導入を求める割合が大きい。

(SA) 問7. 営業秘密とした技術が仮に漏えいした場合には、最も重要な技術の場合でどのような損害が想定されますか。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。





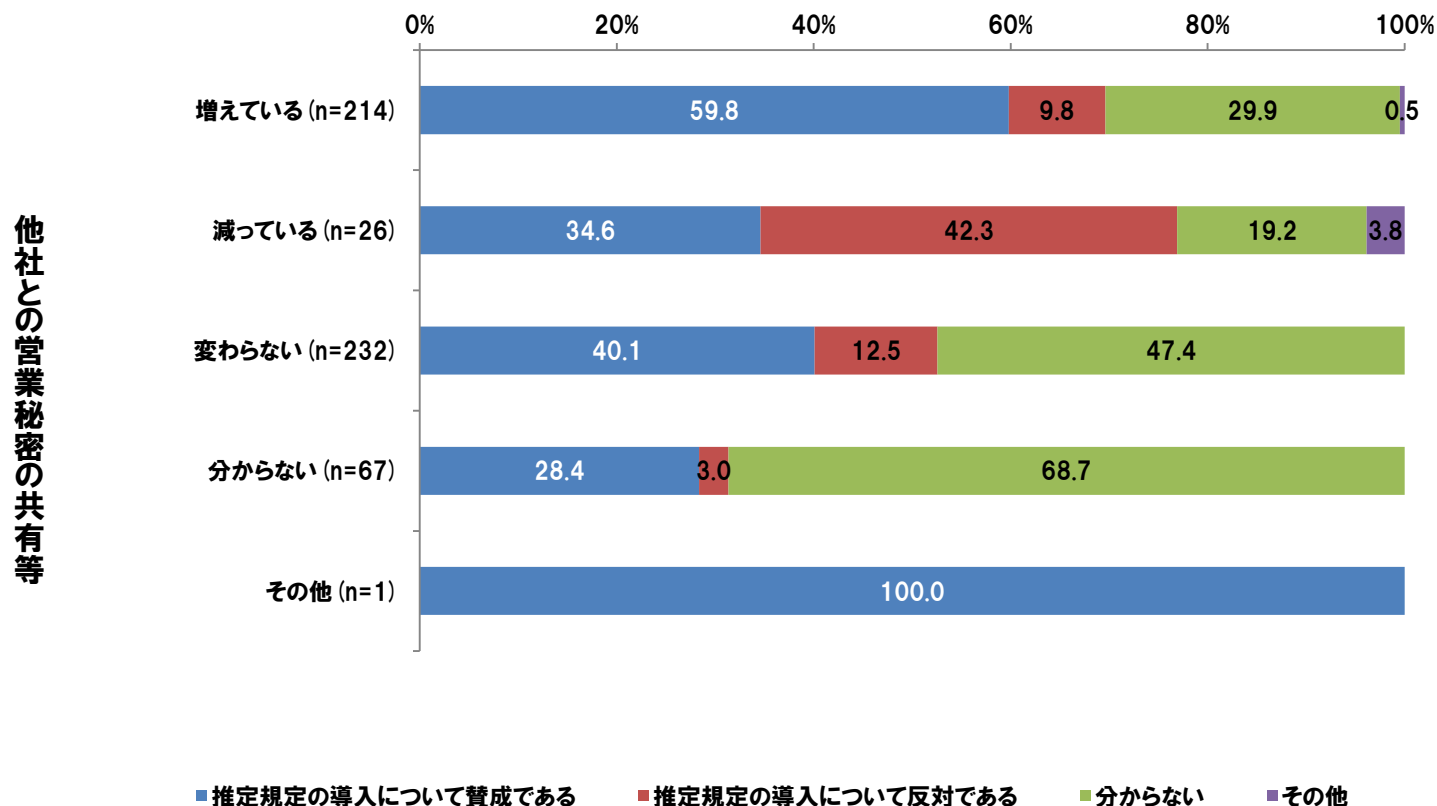
## 4-11 推定規定への要望の強さ

### (5) 他社と営業秘密を共有等していることとの関係

他社との間での営業秘密共有が増えている企業では、推定規定の導入を求める割合が大きい。

(SA) 問8. 業務委託や下請、共同開発等によって、自社の営業秘密を他社と共有したり、他社の営業秘密を自社で管理するといった事例は、ここ5年～10年の間に増加していますか。

(SA) 問17. 推定規定の導入についてどう考えますか。



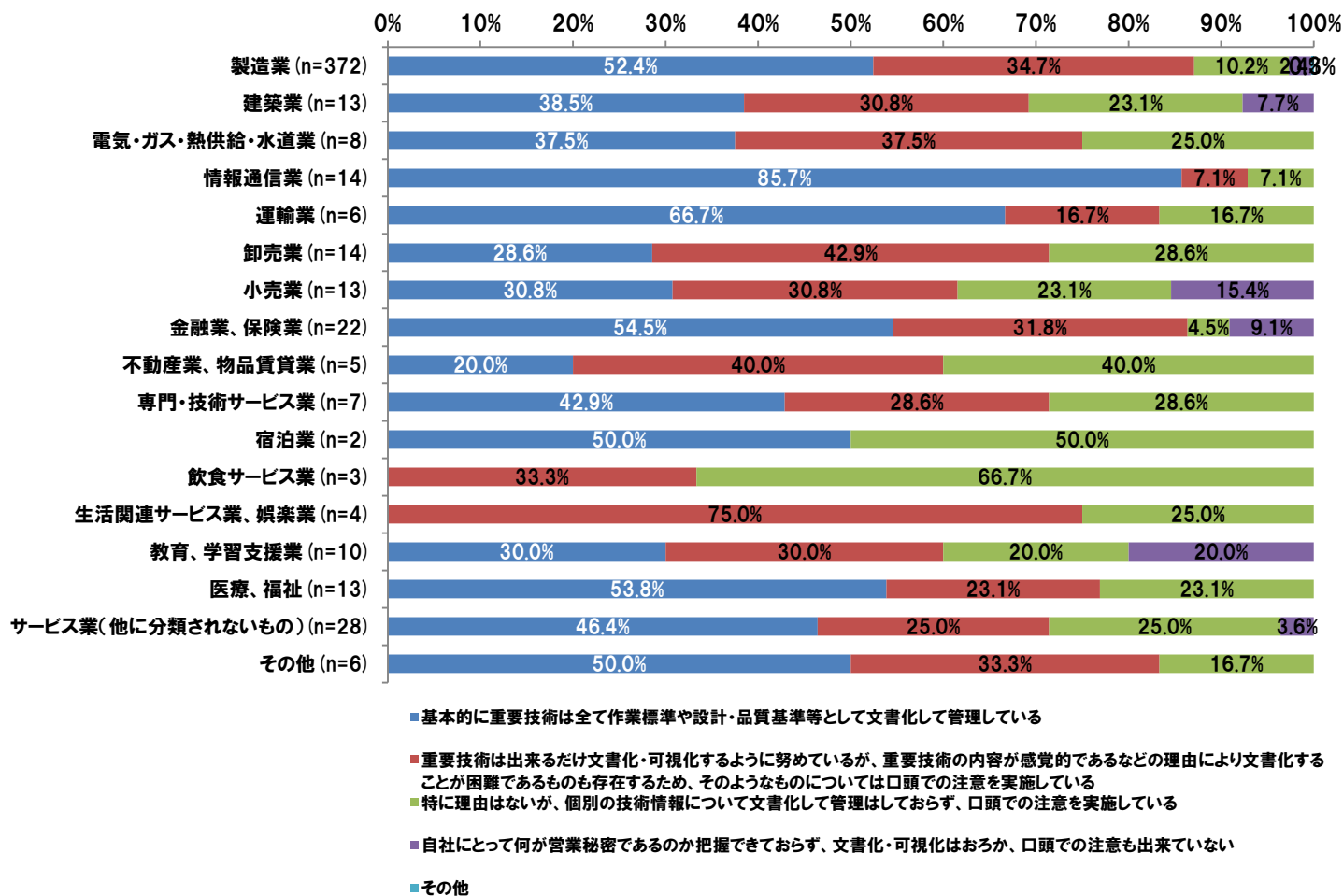
## 4-12 技術の文書化・可視化の程度

### (1) 業種による違い

重要技術（暗黙知）の文書化・可視化は、業種によらず幅広く実施されているが、製造業では特にその傾向が強い。

(SA) 問11. 社員が体得している重要技術（製品製造のキモになるノウハウなどの暗黙知）に関して、貴社ではどの程度文書化・可視化して管理していますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種について教えてください。



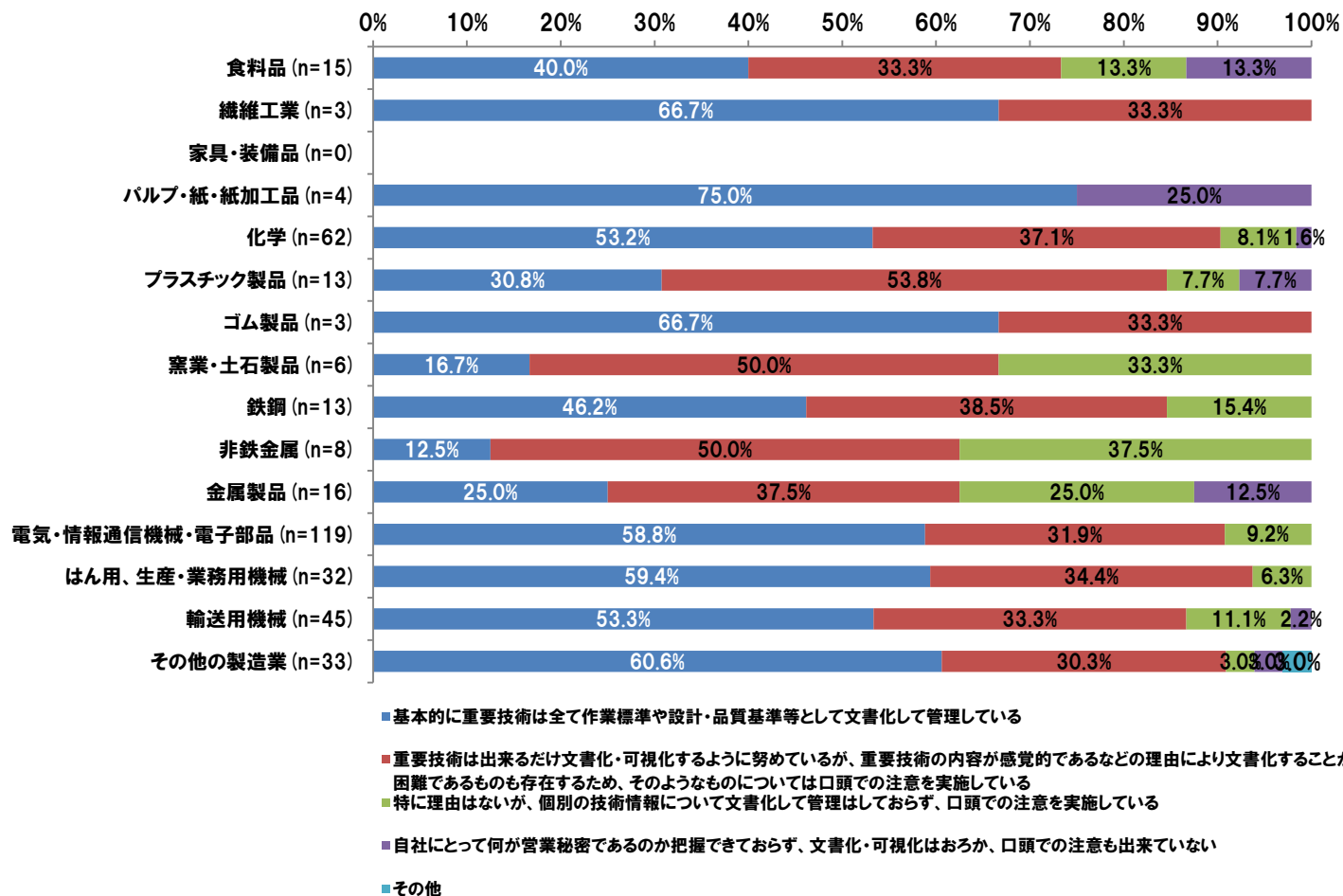
## 4-12 技術の文書化・可視化の程度

### (2) 製造業内の業種による違い

重要技術（暗黙知）の文書化・可視化は、製造業では、業種によらず非常に高い割合で実施されている。

(SA) 問11. 社員が体得している重要技術（製品製造のキモになるノウハウなどの暗黙知）に関して、貴社ではどの程度文書化・可視化して管理していますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種（中分類）についてお教えてください。

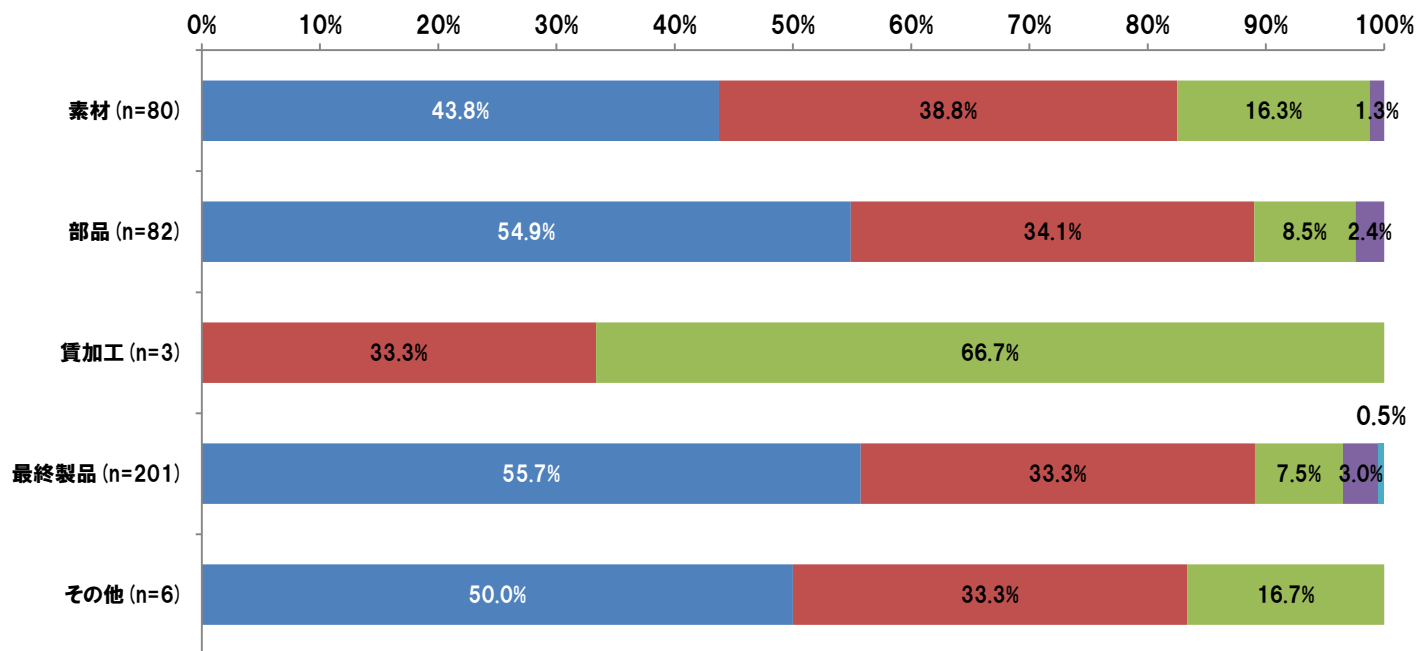


## 4-12 技術の文書化・可視化の程度

### (3) 製造業内の主力製品による違い

重要技術（暗黙知）の文書化・可視化は、製造業では、主力製品によらず非常に高い割合で実施されている。

(SA) 問11. 社員が体得している重要技術（製品製造のキモになるノウハウなどの暗黙知）に関して、貴社ではどの程度文書化・可視化して管理していますか。  
 (SA) F3. 貴社の主力製品についてお教えてください。



- 基本的に重要技術は全て作業標準や設計・品質基準等として文書化して管理している
- 重要技術は出来るだけ文書化・可視化するように努めているが、重要技術の内容が感覚的であるなどの理由により文書化することが困難であるものも存在するため、そのようなものについては口頭での注意を実施している
- 特に理由はないが、個別の技術情報について文書化して管理はしておらず、口頭での注意を実施している
- 自社にとって何が営業秘密であるのか把握できておらず、文書化・可視化はおろか、口頭での注意も出来ていない
- その他

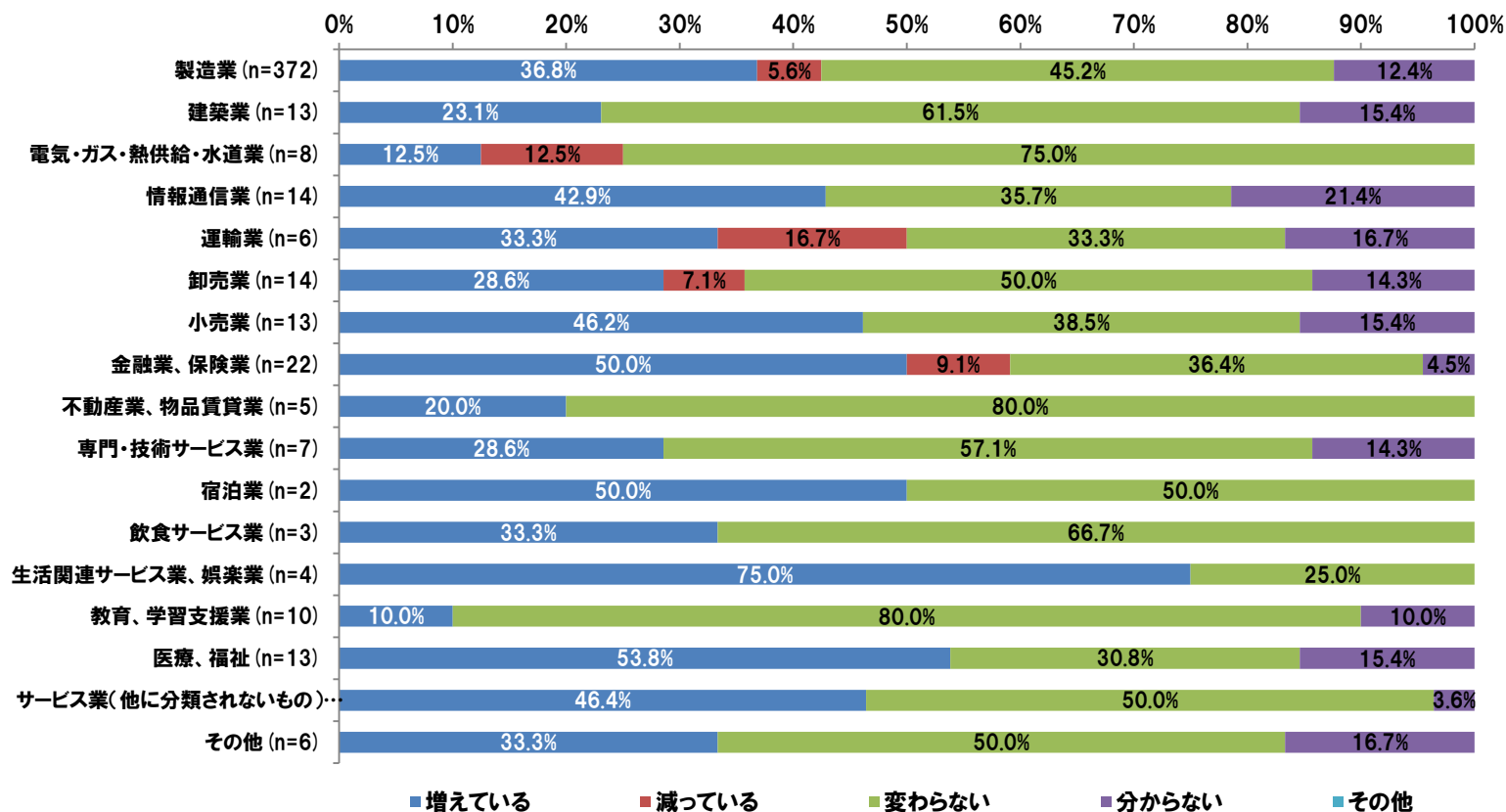
## 4-13 営業秘密管理のコスト

### (1) 業種による違い

営業秘密管理に要する人員・時間・費用の増加傾向は、業種により様々だが、製造業は平均的な位置取りである。

(SA) 問10. 営業秘密管理に要する人員・時間・費用は、ここ5年～10年の間に増大していますか。

(SA) F1. 貴社の主要業種についてお教えてください。



営業秘密管理に要する人員・時間・費用

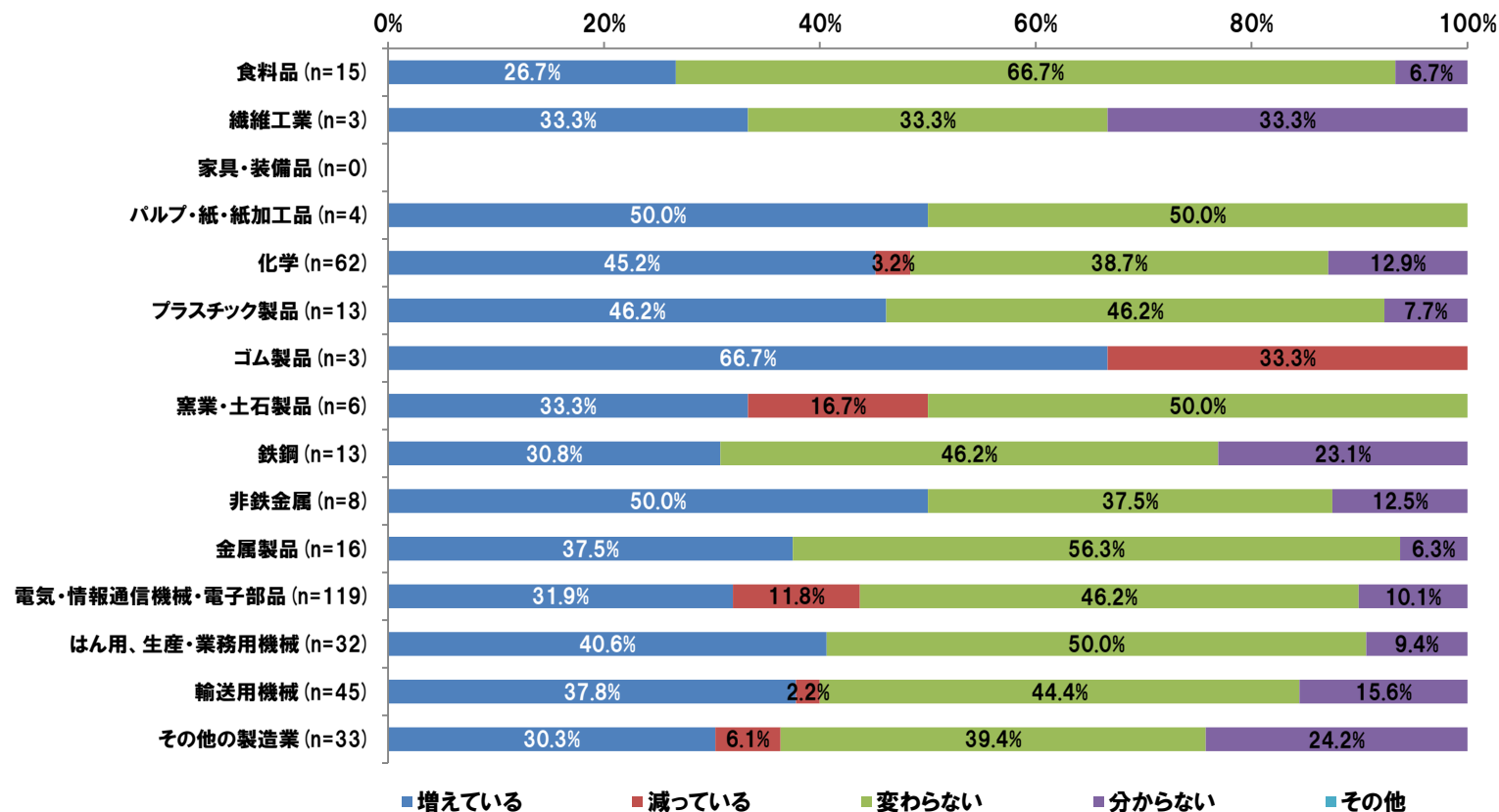
## 4-13 営業秘密管理のコスト

### (2) 製造業内の業種による違い

営業秘密管理に要する人員・時間・費用の増加傾向は、製造業内では業種によりあまり変わらないが、化学等増加傾向がやや強い業種もある。

(SA) 問10. 営業秘密管理に要する人員・時間・費用は、ここ5年～10年の間に増大していますか。

(SA) F2. 貴社の主要業種(中分類)について教えてください。



営業秘密管理に要する人員・時間・費用

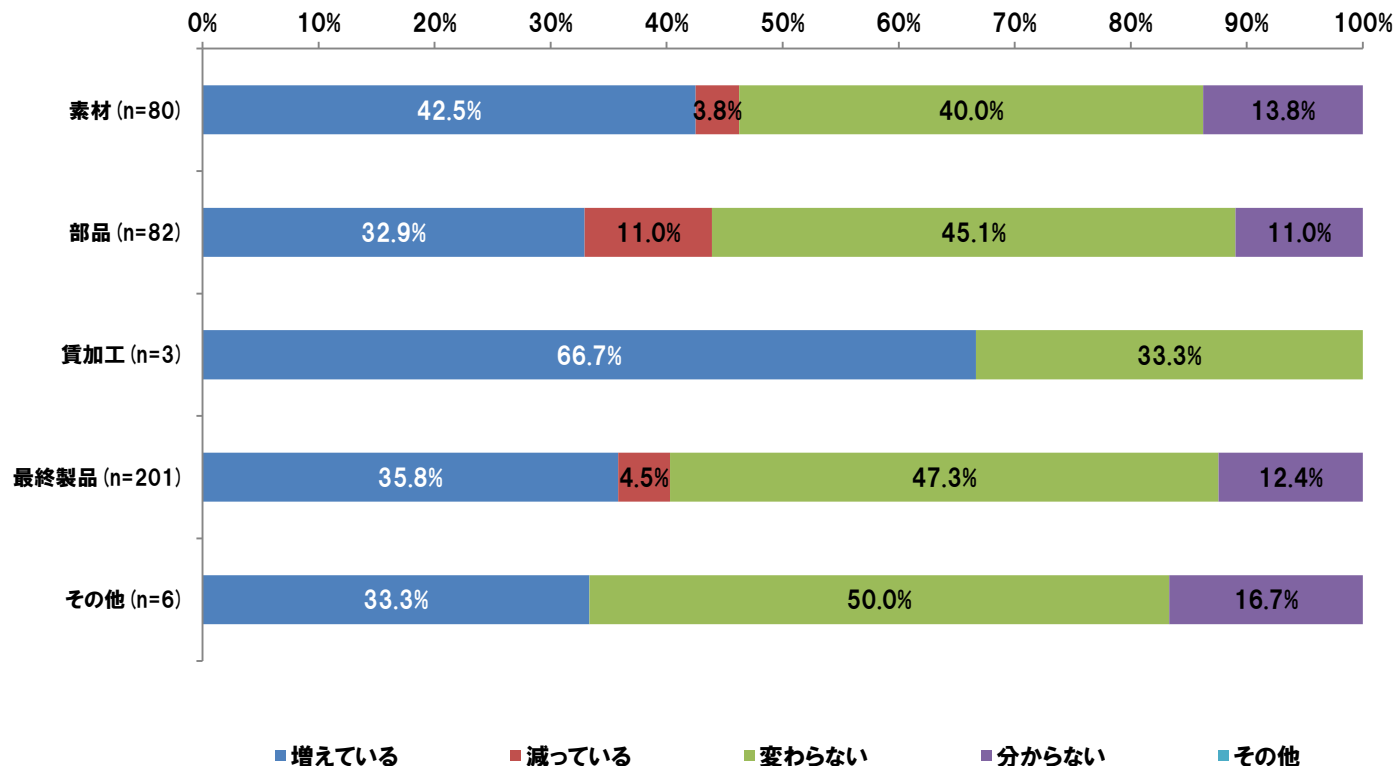
## 4-13 営業秘密管理のコスト

### (3) 製造業内の主力製品による違い

営業秘密管理に要する人員・時間・費用の増加傾向は、主力製品にはあまり影響を受けない。

(SA) 問10. 営業秘密管理に要する人員・時間・費用は、ここ5年～10年の間に増大していますか。

(SA) F3. 貴社の主力製品についてお教えてください。



営業秘密管理に要する人員・時間・費用